

平成22年

町勢要覧

～人と自然が輝く オンリーワンの島づくり～



役場南庁舎別館完成

ヨロン島への熱い想いに感謝します
ヨロン島サング礁基金



与論町

目 次

■位置・交通	2
■気象	3
■与論町の沿革	4
■行政機構	5～6
■議会構成	7
■人口	8～9
■選挙	9
■財政	10～13
■所得	14
■産業経済	15～18
■保健・衛生・民生・福祉	19～20
■教育	21
■社会・文化	22～24
■消防・防災	25
■交通・運輸	26
■観光	27～28
■与論町のあゆみ	29～37
■町内主要施設等一覧	38

位置・交通

位置（役場）

地名	所在地	東 経	北 緯
茶 花	茶花32-1	128° 25' 02"	27° 02' 40"

面積・標高

周 囲	面 積	最高標高
23.65km	20.49km ²	97.08m

与論島への交通アクセス

地名	距離及び所要時間	
	船 舶	航 空 機
鹿 児 島	594km 約20時間 (鹿児島新港)	576km 1時間15分 (鹿児島空港)
奄 美	211km 約8時間30分 (名瀬港)	203km 40分 (奄美空港)
徳 之 島	99km 約4時間 (亀徳港)	
沖 永 良 部	48km 約2時間 (和泊港)	55km 25分 (沖永良部空港)
那 覇	141km 約5時間 (那覇港)	110km 35分 (那覇空港)
	131km 約3時間40分 (那覇新港) 琉球エクスプレス	
本 部	85km 約2時間30分 (本部港)	
大 阪	1151km 約35時間 (南港) 琉球エクスプレス	
神 戸	1172km 約38時間 (六甲アイランド) 琉球エクスプレス	

※琉球エクスプレスは、那覇～（奄美大島）～大阪・神戸間を運行しています。

フェリー時刻表

平成22年12月現在

那覇→鹿児島 (上 り)	那 覇	本 部		与 論		鹿児島
	出 港	入 港	出 港	入 港	出 港	入 港
	7 : 0 0	8 : 5 0 ~ 9 : 0 0	9 : 1 0 ~ 9 : 2 0	1 1 : 4 5 ~ 1 1 : 5 0	1 2 : 1 0	翌 日 8 : 3 0
鹿児島→那覇 (下 り)	鹿児島	与 論		本 部		那 覇
	出 港	入 港	出 港	入 港	出 港	入 港
	前 日 1 8 : 0 0	1 3 : 4 0	1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 1 0	1 6 : 3 0 ~ 1 6 : 4 0	1 6 : 5 0 ~ 1 7 : 1 0	1 8 : 4 0 ~ 1 9 : 0 0

※就航するフェリーにより出入港時間が少々異なります。

航空便の時刻表

平成22年11月現在

与論⇔鹿児島	鹿児島	与論		鹿児島		
	出発	到着	出発	到着		
	11:25	12:45	13:15	14:25		
与論⇔（沖永良部）⇔奄美	奄美大島	沖永良部	与論		沖永良部	奄美大島
	出発	到着	出発	到着	出発	到着
	① 10:25	→	11:05	11:30	11:55 12:20	12:55
	② 10:25	11:00 11:25	11:50	12:15	→	12:55
与論⇔那覇	那覇	与論		那覇		
	出発	到着	出発	到着		
	12:35	13:15	13:40	14:20		

※①は火・木・土曜運航 ②は月・水・金・日曜運航

※空港、港、ホテル、イベント会場への移動は、宿泊施設のバス等で送迎いたします。

※島内には定期バス・タクシーが運行しています。（フリー乗降制）

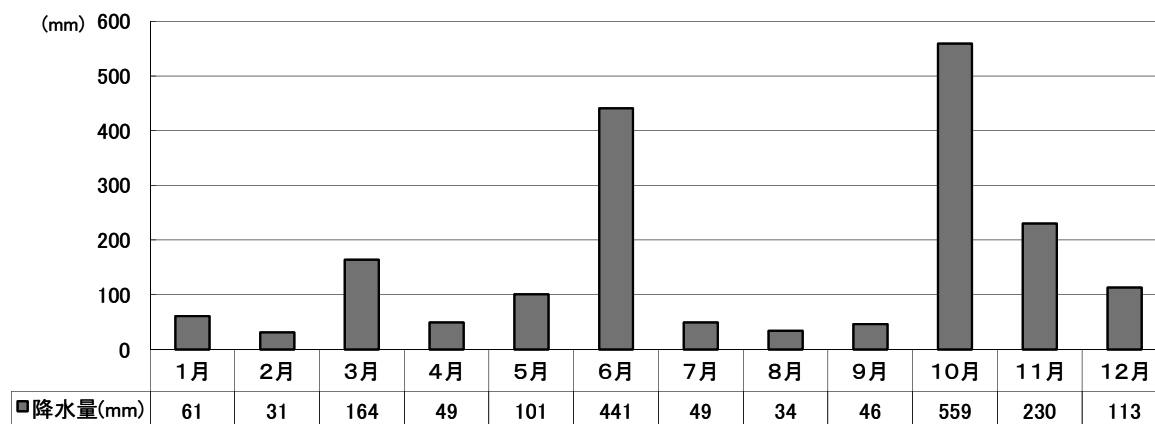


2005.8.1 Q400型機初就航記念セレモニー

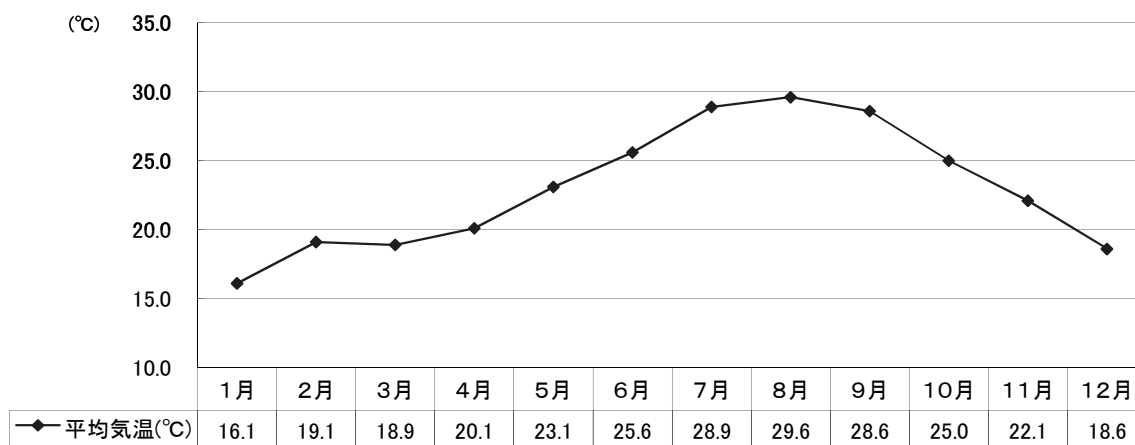


昭和55年与論新港（供利港）

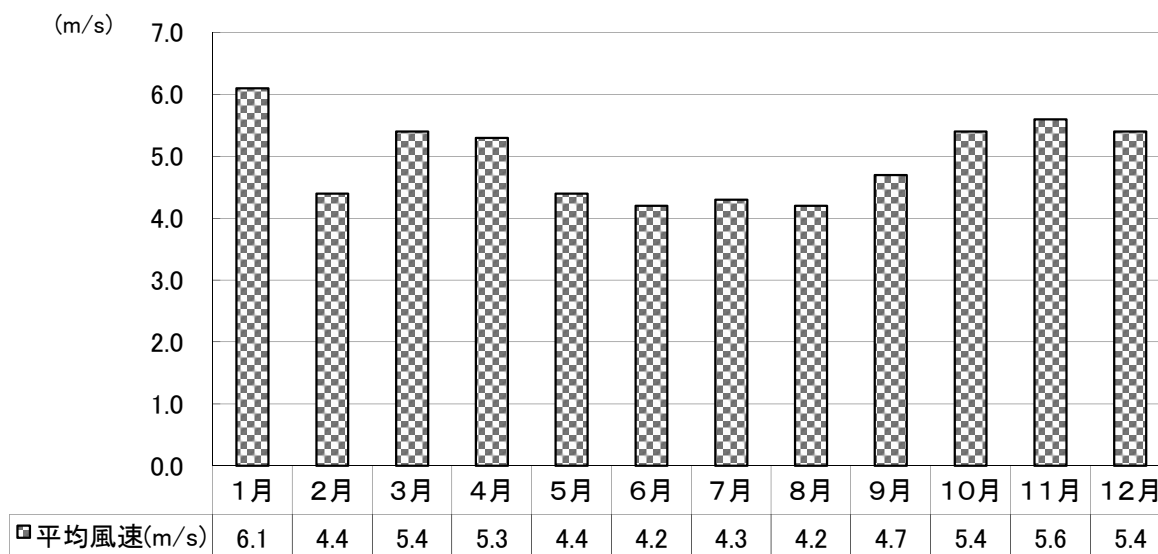
月別降水量 年間降水量 1,878 mm



月別平均気温 年平均気温 23.0 ℃



月別平均風速 年平均風速 5.0 m/s



「奄美世」のころ

推古 24 年（616）を境に、日本に対してはそれまでの植民地的関係から朝貢時代に移り、大和朝廷に従属したこと、大宝元年（701）、筑前国に大宰府が設置されてその管轄となり、純然たる日本の領土となったことなどが分かっています。

原始からこのころまでの、階級社会以前ののどかで太平な部落共同体の時代を、後の世で「奄美世（奄美時代）」と呼んでいます。

「按司世」のころ

天長元年（824）経済上の理由から大宰府の管轄外に放棄され、琉球王朝に服属するまで約 440 年間、無所属時代が続きました。このころは、按司という首長たちの支配割拠する階級社会が形成された時代で、「按司世」と称しています。

「那覇世」のころ

文永 3 年（1266）、琉球王朝の善政を慕って自ら英祖王に納貢し、以後 340 年間琉球王の統治下にありました。

このころは、平和で安穏をおう歌した時代「那覇世」であり、後の藩政時代「大和世」と特に区別されています。

「大和世」のころ

慶長 14 年（1609）、島津藩の琉球征服の結果、与論を含む大島諸島は琉球から分割されて薩摩の直属となり、沖永良部に含まれた行政管下に置かれ、明治 4 年（1871）の廃藩置県に至るまで、約 260 年間封建政治の奴隸的植民地政策にしん吟しなければなりません。

この「大和世」の間、元禄以後は砂糖が重要な意義をもち特に延享 3 年（1746）の“換糖上納”決定以後はサトウキビが主作の地位につき、産業経済に重大な影響を与えました。

明治・大正のころ

明治 8 年、在藩所が廃止されて戸長制にかわり、沖永良部支庁の管轄となり、大水間切と東間切に戸長役場を設置しました。明治 13 年、大字瀬利覚（現在の城）に戸長役場をまとめて以来、数回にわたり役場所在地を変更した後、大正 4 年に現在地に落ち着きました。

また、明治 41 年に島しょ町村制が実施されて「与論村」が誕生した後、大正 9 年には町村制が施行されています。

一方、明治 32 年から 34 年にかけて、過酷な自然と人口過密のため、島民約 900 人が長崎県口之津町へ集団移住（10 年後に福岡県大牟田市三池に転住）しました。

終戦・祖国復帰 新しい時代へ

昭和 19 年、満州開拓団として島民約 600 人が中国錦州省盤山に入植しましたが、敗戦により引き揚げ、約 260 人が鹿児島県田代町（現 錦江町）に集団移住しました。

昭和 21 年、2.2 宣言により米国軍政下に置かれたため、戦後復興は 8 年もの間放置され耐乏生活を余儀なくされました。

昭和 28 年 12 月、日米協定に基づく祖国復帰を果たし、翌 29 年からは特別措置法により、復興、振興、振興開発と現在まで振興策が講じられてきました。

また、昭和 37 年 12 月 28 日付自治省告示第 74 号により、翌 38 年 1 月から町制を施行し、「与論町」となり現在に至ります。

町民の暮らしに直結する交通・産業の基盤整備や農・水産業、観光などの振興は近年著しいものがありますが、新しい時代への一層の飛躍を目指して、町民一丸となり「人と自然が輝くオンリーワンの島づくり」をスローガンに、まちづくりに取り組んでいます。



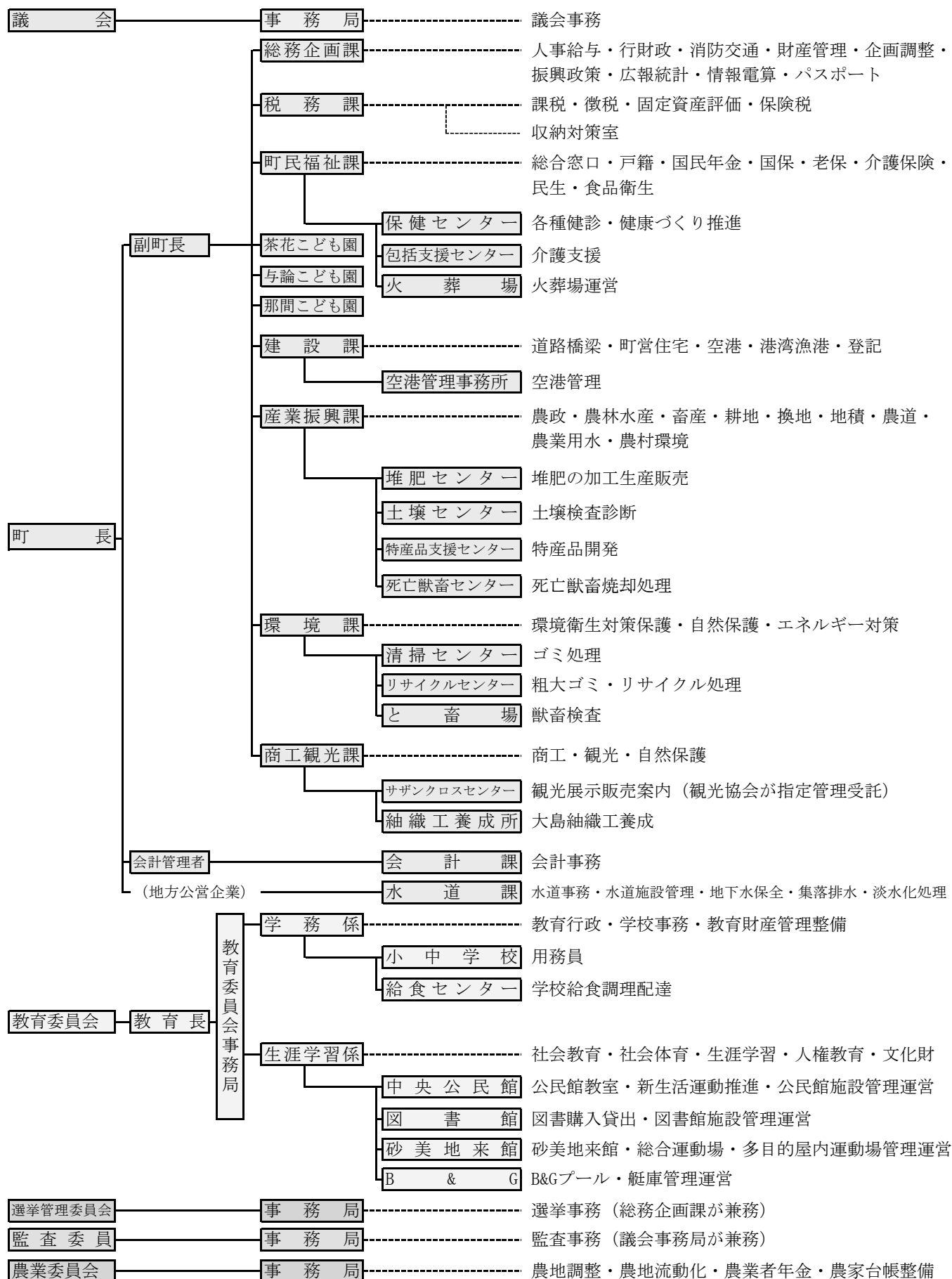
集団就職・江ヶ島栈橋（昭和 40 年頃）



役場庁舎

与論町役場組織機構図

(平成22年10月1日現在) 職員数105人



名誉町民

氏 名	推戴年月日	氏 名	推戴年月日	氏 名	推戴年月日
有 村 治 峯	昭和48年12月25日	山 下 平 志	昭和54年12月17日	伊 藤 佐江吉	昭和56年12月9日
西 田 当 元	昭和48年12月25日	龍 野 通 雄	昭和54年12月17日		

栄誉町民

※亡くなられた方への推戴の場合、死亡した年月日とする

氏 名	推戴年月日	氏 名	推戴年月日
益 田 元 甫	平成14年6月13日	山 下 為 吉	平成11年6月15日 ※
池 田 政 敏	平成16年12月19日	佐 藤 持 久	平成21年11月30日

歴代戸長・村長・町長

氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)
鶴 政 信	明治6年～ 明治13年 (7・0)	山 下 平 志	大正7年7月～ 大正13年2月 (5・7)	久 留 富 森	昭和34年9月～ 昭和38年9月 (4・0)
上 野 應 介	明治13年～ 明治34年 (21・0)	山 喜見政	大正13年4月～ 昭和8年4月 (9・1)	龍 野 通 雄	昭和38年9月～ 昭和50年9月 (12・0)
梅 山 藤 里	明治34年～ 明治38年 (4・0)	黒 田 正 孝	昭和8年4月～ 昭和12年3月 (4・0)	坂 元 原 澄	昭和50年9月～ 昭和54年9月 (4・0)
時 千 良	明治38年～ 明治39年 (1・0)	田 中 上 安	昭和12年7月～ 昭和16年6月 (4・0)	山 市 郎	昭和54年9月～ 昭和58年9月 (4・0)
赫 助 熊	明治39年～ 明治41年 (2・0)	黒 田 正 孝	昭和16年8月～ 昭和18年12月 (2・4)	川 畑 浩 一	昭和58年9月～ 昭和62年9月 (4・0)
龍田 佐隆史	明治41年～ 明治45年 (4・0)	金 井 清 実	昭和19年4月～ 昭和23年6月 (4・2)	福 富 雄	昭和62年9月～ 平成3年9月 (4・0)
龍宮 辰次郎	大正元年～ 大正4年 (4・0)	山本 喜久政	昭和23年6月～ 昭和27年9月 (4・3)	平 田 敏 秀	平成3年9月～ 平成11年9月 (8・0)
龍 中 興	大正4年～ 大正5年 (1・0)	龍 野 通 雄	昭和27年6月～ 昭和30年8月 (3・2)	南 政 吾	平成11年9月～ 現在に至る
皆吉 平安禎	大正5年～ 大正7年 (2・0)	山 下 平 志	昭和30年9月～ 昭和34年9月 (4・0)		

歴代助役

氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)
山 喜見政	大正9年4月～ 大正13年4月 (4・0)	港 豊 茂	昭和27年2月～ 昭和30年2月 (3・0)	川 畑 辰 雄	昭和55年6月～ 昭和58年9月 (3・3)
黒 田 正 孝	大正13年4月～ 昭和8年4月 (9・0)	基 玄 森	昭和30年5月～ 昭和32年7月 (2・2)	朝 岡 勝 雄	昭和58年10月～ 昭和62年9月 (4・0)
市 来 好 満	昭和8年4月～ 昭和12年6月 (4・2)	田 中 植 里	昭和32年8月～ 昭和34年11月 (2・3)	川 畑 辰 雄	昭和63年2月～ 平成3年9月 (3・7)
山本 喜久政	昭和12年6月～ 昭和16年3月 (3・9)	谷 山 慶 介	昭和34年12月～ 昭和38年11月 (4・0)	町 田 末 吉	平成4年10月～ 平成11年4月 (6・6)
久 留 富 森	昭和16年3月～ 昭和21年6月 (5・3)	増 尾 並 村	昭和39年3月～ 昭和47年3月 (8・0)	大 田 元 茂	平成11年10月～ 平成19年9月 (8・0)
金 久 盛 高	昭和23年7月～ 昭和25年8月 (2・1)	川 畑 茂	昭和47年4月～ 昭和51年3月 (4・0)		
杉 盛 情	昭和25年9月～ 昭和26年11月 (1・2)	大 山 直 行	昭和51年6月～ 昭和55年3月 (3・9)		

歴代収入役

氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)
吉 田 鶴 吉	明治41年～ 大正4年 (9・0)	山本 喜久政	昭和8年4月～ 昭和12年6月 (4・2)	村 田 序 克	昭和37年8月～ 昭和46年8月 (9・0)
麓 義 弘	大正5年～ 大正6年 (2・0)	柳 田 泰 助	昭和12年6月～ 昭和16年3月 (3・9)	平 田 前 行	昭和46年8月～ 昭和58年8月 (12・0)
池 田 政 住	大正7年～ 大正12年 (6・0)	金 久 盛 高	昭和16年3月～ 昭和23年6月 (7・3)	阿 多 健 夫	昭和58年8月～ 平成3年8月 (8・0)
山 下 清 信	大正13年～ 昭和6年 (8・0)	杉 森 情	昭和23年7月～ 昭和25年9月 (2・2)	南 仁 義	平成3年8月～ 平成15年6月 (11・10)
市 来 好 満	昭和7年4月～ 昭和8年4月 (1・0)	町 永 吉 澄	昭和25年9月～ 昭和37年7月 (11・10)		

平成15年10月1日～平成19年3月31日まで、収入役の事務は助役が兼掌、平成19年4月1日以降は、会計管理者(会計課長兼務)が兼掌

歴代教育長

氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)	氏 名	在職期間(年・ヶ月)
武田 恵喜光	昭和27年5月～ 昭和29年3月 (1・11)	竹 内 得 吉	昭和39年10月～ 昭和50年9月 (11・0)	喜 山 富 三	平成元年10月～ 平成5年9月 (4・0)
伊 藤 佐 孝	昭和29年6月～ 昭和30年8月 (1・3)	山 下 勇 夫	昭和50年10月～ 昭和54年9月 (4・0)	竹 下 徹	平成5年10月～ 平成13年9月 (8・0)
山 下 福 裁	昭和30年12月～ 昭和31年9月 (0・10)	益 田 元 甫	昭和54年12月～ 昭和62年12月 (8・0)	田 中 國 重	平成13年10月～ 現在に至る
東 可 梯	昭和31年10月～ 昭和39年9月 (8・0)	福永 政宜美	昭和63年1月～ 平成元年9月 (1・3)		

議会構成

平成22年9月現在

議 長	町 田 末 吉	副議長	大 田 英 勝	監査委員	福地 元一郎
-----	---------	-----	---------	------	--------

常任委員会

委員会名	委員長	副委員長	委 員	
総務厚生	麓 才良	本畑 敏雄	川村 武俊	福地 元一郎
			大田 英勝	喜村 政吉
文教経済	野口 靖夫	供利 泰伸	林 隆寿	喜山 康三
			町田 末吉	坂元 克英

議会運営委員会

委員長	副委員長	委 員
喜村 政吉	麓 才良	野 口 靖 夫、 大 田 英 勝、 福 地 元一郎

議会広報委員会

委員長	副委員長	委 員
福 地 元一郎	川村 武俊	供利 泰伸、 大田 英勝、 林 隆寿、 喜山 康三

沖永良部与論地区広域事務組合議員

議 員	喜山 康三、 本畑 敏雄、 林 隆寿
-----	--------------------

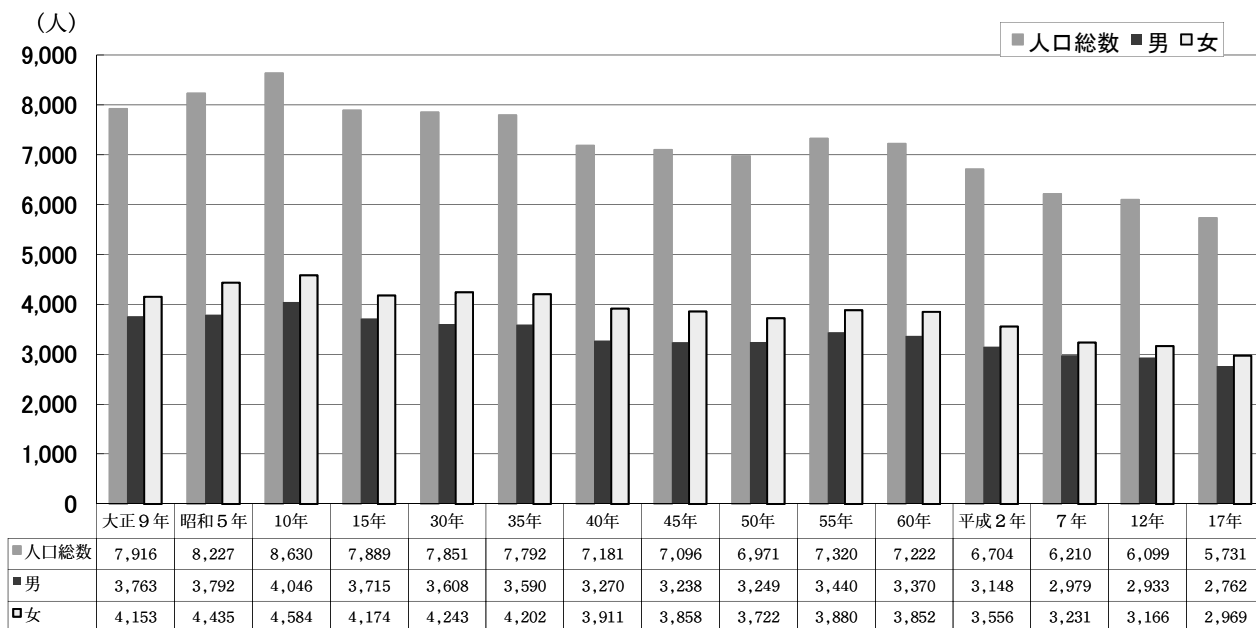
歴代議長

氏 名	在職期間	年 数	氏 名	在職期間	年 数
川畑 谷城	自 昭和26年8月 至 昭和27年1月	5ヶ月	川 畑 茂	自 昭和43年9月 至 昭和47年3月	3年6ヶ月
市来 平三	自 昭和27年1月 至 昭和27年9月	8ヶ月	谷山 慶介	自 昭和47年3月 至 昭和63年9月	16年6ヶ月
有村 泰治	自 昭和27年9月 至 昭和31年9月	4年	林 寿 雄	自 昭和63年9月 至 平成 8年9月	8年
町田 原長	自 昭和31年9月 至 昭和38年8月	7年	野口 靖夫	自 平成 8年9月 至 平成16年9月	8年
川 畑 茂	自 昭和38年9月 至 昭和39年9月	1年	町田 末吉	自 平成16年9月	現在に至る
町田 原長	自 昭和39年9月 至 昭和43年9月	4年			

人 口

人口の推移

(資料：国勢調査)



世帯数と一世帯当り世帯人員の推移

(資料：国勢調査)

年	世帯数	世帯人員(人)	年	世帯数	世帯人員(人)	年	世帯数	世帯人員(人)
大正14年	1,668	4.6	昭和35年	1,635	4.8	昭和60年	1,979	3.6
昭和5年	1,714	4.8	昭和40年	1,596	4.5	平成2年	2,013	3.3
昭和10年	1,817	4.7	昭和45年	1,626	4.4	平成7年	2,004	3.1
昭和15年	1,731	4.6	昭和50年	1,697	4.1	平成12年	2,063	3.0
昭和30年	1,640	4.8	昭和55年	1,939	3.8	平成17年	2,082	2.8

集落別世帯数及び人口の推移

(資料：国勢調査)

区分 集落	平成2年				平成7年				平成12年				平成17年			
	世帯数	男	女	計(人)	世帯数	男	女	計(人)	世帯数	男	女	計(人)	世帯数	男	女	計(人)
茶 花	698	1,023	1,142	2,165	680	971	1,059	2,030	724	992	1,076	2,068	724	928	1,026	1,954
立 長	191	337	377	714	179	286	320	606	195	279	330	609	206	268	304	572
城	138	212	223	435	143	196	218	414	144	188	206	394	141	170	184	354
朝 戸	141	226	266	492	138	219	247	466	140	201	221	422	144	198	203	401
西 区	105	171	209	380	113	168	188	356	102	149	167	316	113	153	166	319
東 区	243	381	478	859	249	380	418	798	255	384	432	816	247	354	383	737
古 里	133	231	269	500	138	222	226	448	139	221	213	434	139	202	201	403
叶	94	149	143	292	94	133	129	262	94	131	116	247	81	105	90	195
那 間	270	412	455	867	270	404	426	830	270	388	405	793	292	384	412	796
計	2,013	3,142	3,562	6,704	2,004	2,979	3,231	6,210	2,063	2,933	3,166	6,099	2,087	2,762	2,969	5,731

産業別就業者 (15歳以上)

(資料：国勢調査)

産 業 分 類	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
農 業	1,000	985	911	953	896	988	887
林 業・狩猟業							
漁 業	33	34	44	38	48	55	62
鉱 業	8	1	2				
建 設 業	151	251	224	269	345	321	303
製 造 業	1,193	1,113	930	520	213	165	191
卸 売 小 売 飲 食 店	259	439	434	421	376	430	572
金融・保険・不動産業	13	10	13	17	20	12	14
運 輸 通 信 業	81	103	132	116	93	107	96
電気・ガス・水道業	13	18	20	22	28	24	18
サ ー ビ ス 業	377	570	554	650	691	779	693
公 務	118	122	133	140	173	161	153
分 類 不 能 の 産 業							1
総 数 (人)	3,246	3,646	3,397	3,146	2,883	3,042	2,990

年齢別人口

(資料：国勢調査)

区分(歳)	0～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	計(人)
昭和35年	1,106	1,094	855	334	391	533	545	398	785	716	576	296	163	7,792
昭和40年	848	1,032	1,020	239	232	335	479	502	740	661	544	383	166	7,181
昭和45年	655	843	1,008	549	277	284	347	449	840	678	585	409	171	7,095
昭和50年	640	670	840	584	347	379	325	344	935	683	577	433	214	6,971
昭和55年	623	716	706	505	398	555	440	362	840	813	632	464	266	7,320
昭和60年	626	634	707	416	221	513	554	436	729	931	654	485	316	7,222
平成2年	409	622	588	418	159	316	475	524	713	797	762	546	375	6,704
平成7年	303	432	606	334	133	205	358	466	873	676	837	565	422	6,210
平成12年	309	339	434	395	137	233	271	392	974	683	734	667	529	6,097
平成17年	282	302	317	271	89	231	292	283	846	868	667	737	546	5,731

※平成12年国勢調査において年齢不詳者2人

人口動態 (1月1日～12月31日)

(資料：町民福祉課)

	自然動態			社会動態			差引増減(人)
	出 生	死 亡	自然増(人)	転 入	転 出	社会増(人)	
平成5年	57	68	△ 11	418	503	△ 85	△ 96
平成6年	65	69	△ 4	380	479	△ 99	△ 103
平成7年	47	68	△ 21	380	492	△ 112	△ 133
平成8年	68	54	14	375	401	△ 26	△ 12
平成9年	53	50	3	390	447	△ 57	△ 54
平成10年	58	52	6	335	414	△ 79	△ 73
平成11年	51	60	△ 9	410	396	14	5
平成12年	45	61	△ 16	389	419	△ 30	△ 46
平成13年	64	70	△ 6	348	442	△ 94	△ 100
平成14年	54	76	△ 22	382	448	△ 66	△ 88
平成15年	59	59	0	371	435	△ 64	△ 64
平成16年	46	69	△ 23	347	449	△ 102	△ 125
平成17年	41	83	△ 42	308	341	△ 33	△ 75
平成18年	59	70	△ 11	330	343	△ 13	△ 24
平成19年	43	76	△ 33	312	358	△ 46	△ 79
平成20年	63	86	△ 23	323	371	△ 48	△ 71
平成21年	39	67	△ 28	307	396	△ 89	△ 117

選 挙

校区別・男女別選挙人名簿登録者数 (平成22年9月1日現在)

(資料：選挙管理委員会)

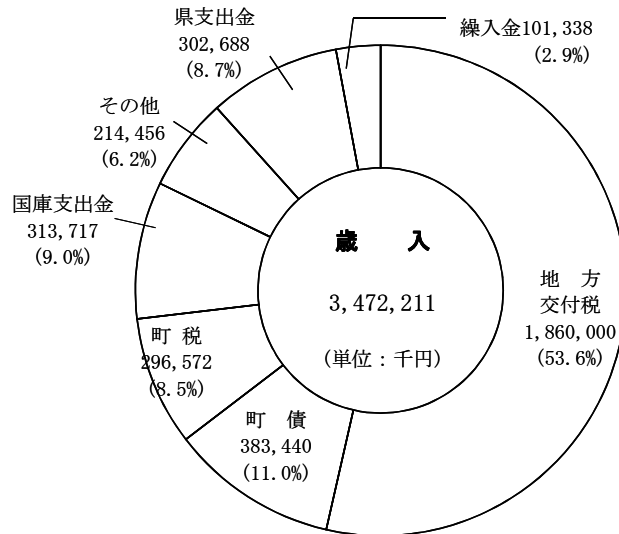
校 区	男	女	計 (人)
茶 花 校 区	919	1,024	1,943
与 論 校 区	694	714	1,408
那 間 校 区	570	615	1,185
計	2,183	2,353	4,536

過去の選挙状況

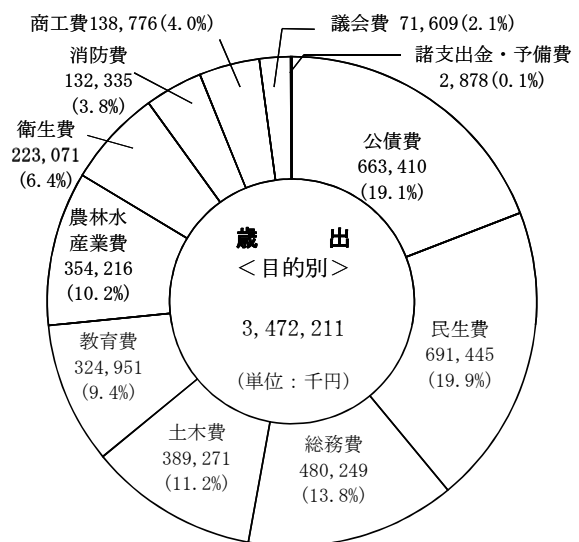
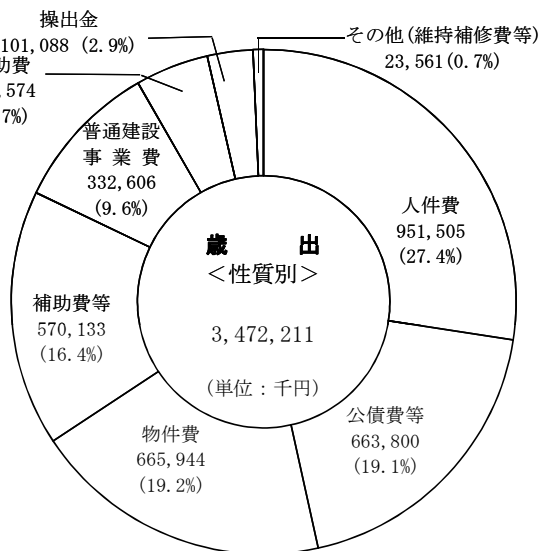
種 別	執行日	有権者数(人)	投票率(%)	種 別	執行日	有権者数(人)	投票率(%)
町 長 選	平成3年9月8日	4,842	92.95	知 事 選	平成12年7月16日	4,644	51.61
町 議 補 選	平成3年9月8日	4,842	92.95	町 議 選	平成12年8月27日	4,726	90.39
参 議 選	平成4年7月26日	4,845	70.27	参 議 選	平成13年7月29日	4,794	74.76
町 議 選	平成4年8月30日	4,749	89.64	農 委 選	平成14年7月7日	3,202	無投票
知 事 選	平成5年2月7日	4,713	60.75	県 議 選	平成15年4月13日	4,592	74.63
農 委 選	平成5年7月11日	3,258	80.45	町 長 選	平成15年9月14日	4,686	無投票
衆 議 選	平成5年7月18日	4,829	84.55	衆 議 選	平成15年11月9日	4,686	86.38
県 議 選	平成7年4月9日	4,669	81.90	合併を問う住民投票	平成15年11月30日	4,954	83.47
参 議 選	平成7年7月23日	4,771	64.14	参 議 選	平成16年7月11日	4,662	78.10
町 長 選	平成7年9月3日	4,675	90.87	知 事 選	平成16年7月11日	4,579	79.47
町 議 補 選	平成7年9月3日	4,675	無投票	町 議 選	平成16年8月22日	4,627	88.42
農 委 選	平成8年7月7日	3,095	81.39	農 委 選	平成17年7月10日	2,792	80.52
知 事 選	平成8年7月28日	4,652	53.70	衆 議 選	平成17年9月10日	4,671	87.60
町 議 選	平成8年8月25日	4,657	87.93	県 議 選	平成19年4月8日	4,605	無投票
衆 議 選	平成8年10月20日	4,714	84.09	参 議 選	平成19年7月29日	4,656	74.72
参 議 選	平成10年7月12日	4,690	80.32	町 長 選	平成19年9月9日	4,571	90.07
県 議 選	平成11年4月11日	4,713	82.69	農 委 選	平成20年6月22日	2,781	無投票
農 委 選	平成11年7月11日	3,088	80.31	知 事 選	平成20年7月13日	4,502	56.75
町 長 選	平成11年9月12日	4,737	91.67	町 議 選	平成20年8月31日	4,569	87.87
町 議 選	平成11年9月12日	4,737	91.67	衆 議 選	平成21年8月30日	4,557	87.36
衆 議 選	平成12年6月25日	4,727	88.49	参 議 選	平成22年7月11日	4,536	73.85

平成22年度 当初予算のあらまし

一般会計 3,472,211千円

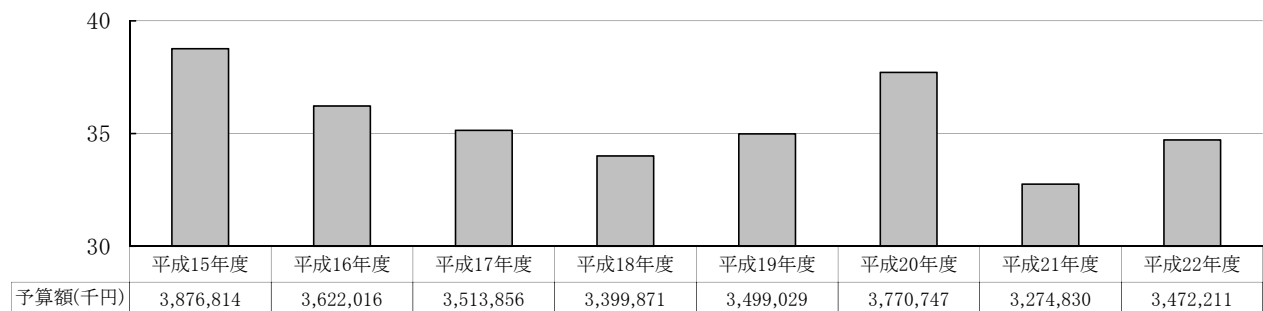


その他内訳(千円)	
利子割交付金	900
配当割交付金	1
株式等譲与所得割交付金	1
地方消費税交付金	40,000
自動車取得税交付金	10,000
地方特例交付金	3,000
交通安全対策特別交付金	450
分担金及び負担金	26,567
使用料及び手数料	31,316
財産収入	11,491
寄附金	2
繰越金	1



一般会計当初予算の推移

(億円)



特別会計 15億2,971万1千円

会 計 名	予算額(千円)	説 明
国民健康保険 (事業勘定)	870,310	国民健康保険被保険者の医療費関係予算
老人保健	5,304	70歳以上の老人医療費予算
と畜場	329	と畜場の運営予算
介護保険	573,996	介護保険制度の運営予算
農業集落排水	22,855	農業集落排水事業の予算
後期高齢者医療	56,063	後期高齢者医療制度の運営予算

水道事業会計 1億2,994万9千円

会 計 名	予算額(千円)	説 明
水道事業収益	172,994	水道料金等の収入
水道事業費用	172,994	水道維持管理等の予算
資本的収入	2,350	加入分担金の予算
資本的支出	80,949	水道施設工事等の予算

決算の状況（一般会計）

（資料：決算効果表）

歳 入

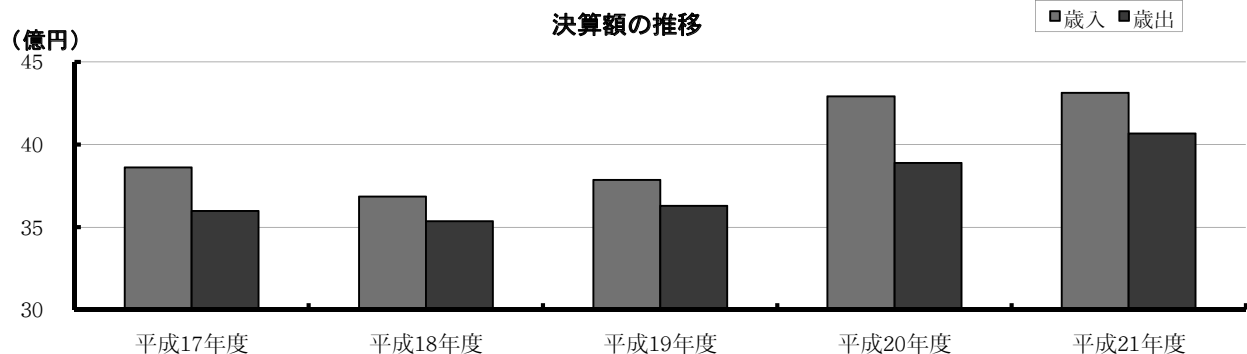
（単位：千円）

区 分 \ 年 度	17		18		19		20		21	
	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)
町 税	291,021	7.5	291,714	7.9	315,328	8.3	313,215	7.3	308,979	7.2
地 方 譲 与 税	67,528	1.7	77,793	2.1	46,158	1.2	44,264	1.0	41,427	1.0
利 子 割 交 付 金	2,331	0.1	2,058	0.1	1,314	0.0	1,303	0.0	999	0.0
配 当 割 交 付 金	0	0.0	0	0.0	688	0.0	199	0.0	158	0.0
株 式 譲 渡 所 得 交 付 金	0	0.0	0	0.0	329	0.0	45	0.0	60	0.0
地 方 消 費 税 交 付 金	49,043	1.3	48,574	1.3	47,963	1.3	47,004	1.1	48,473	1.1
自 動 車 取 得 税 交 付 金	12,656	0.3	12,883	0.3	12,173	0.3	11,115	0.3	6,847	0.2
地 方 特 例 交 付 金	6,698	0.2	6,219	0.2	3,117	0.1	4,249	0.1	6,209	0.1
地 方 交 付 税	1,978,258	51.2	2,043,370	55.5	2,007,292	53.0	2,109,210	49.1	2,118,879	49.1
交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	831	0.0	863	0.0	1,159	0.0	742	0.0	754	0.0
分 担 金 及 び 負 担 金	21,562	0.6	29,911	0.8	27,626	0.7	19,875	0.5	20,586	0.5
使 用 料 及 び 手 数 料	38,109	1.0	30,022	0.8	32,896	0.9	42,876	1.0	42,346	1.0
国 庫 支 出 金	229,767	5.9	216,030	5.9	302,922	8.0	632,637	14.7	510,494	11.8
県 支 出 金	227,937	5.9	189,416	5.1	180,185	4.8	206,527	4.8	250,958	5.8
財 産 収 入	11,280	0.3	11,781	0.3	13,062	0.3	14,139	0.3	19,648	0.5
寄 付 金	1,900	0.0	32	0.0	0	0.0	0	0.0		0.0
繰 入 金	242,069	6.3	91,863	2.5	326,766	8.6	300,282	7.0	82,821	1.9
繰 越 金	150,128	3.9	133,135	3.6	13,057	0.3	10,060	0.2	271,582	6.3
諸 収 入	35,769	0.9	48,020	1.3	62,114	1.6	54,479	1.3	112,287	2.6
町 債	495,100	12.8	451,300	12.2	393,300	10.4	479,500	11.2	470,200	10.9
歳 入 合 計	3,861,987	100.0	3,684,984	100.0	3,787,449	100.0	4,291,721	100.0	4,313,707	100.0

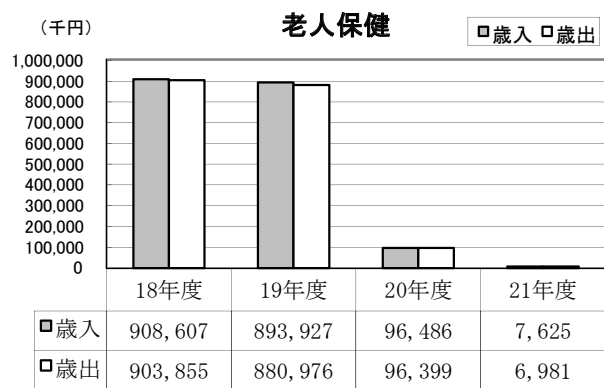
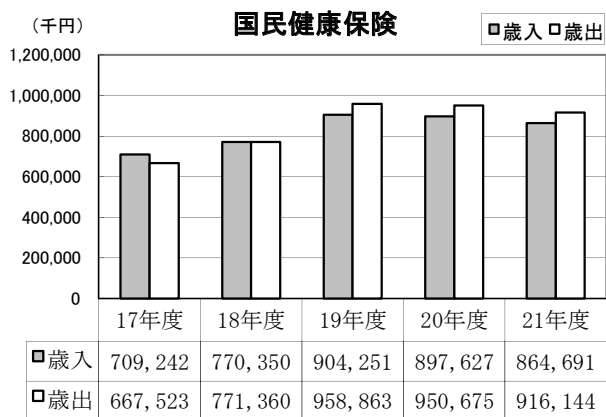
歳 出

（単位：千円）

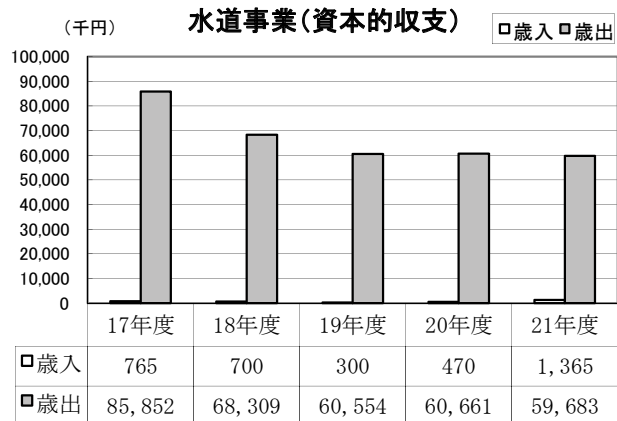
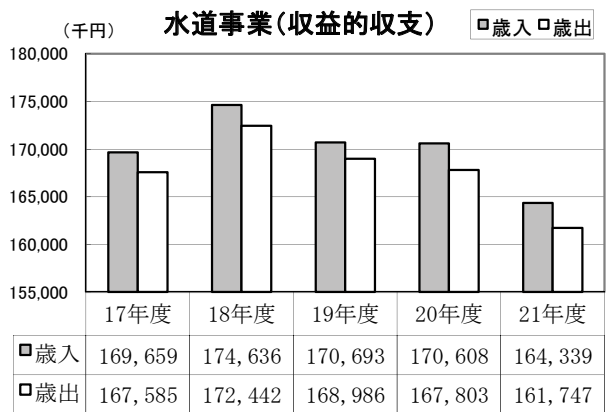
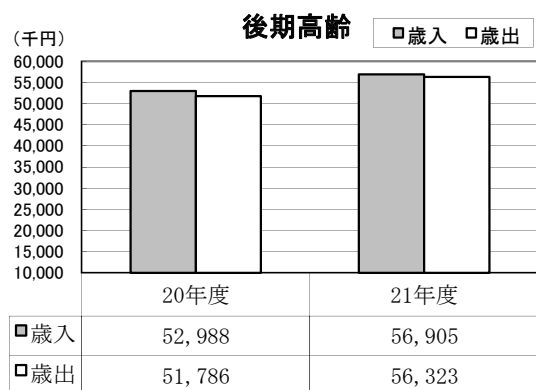
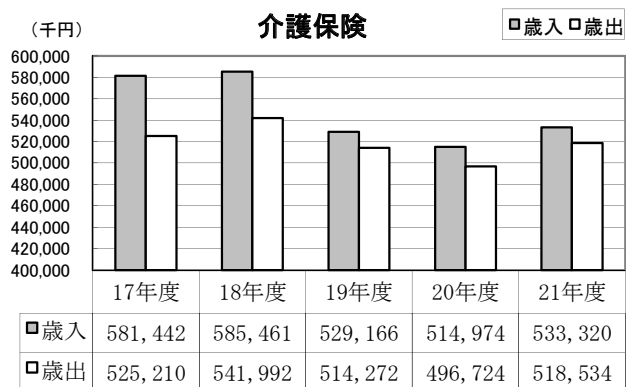
区 分 \ 年 度	17		18		19		20		21	
	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)	金 額	構成比 (%)
議 会 費	71,020	2.0	70,273	2.0	70,929	2.0	69,221	1.8	71,797	1.8
総 務 費	419,361	11.7	465,221	13.2	397,236	10.9	571,822	14.7	755,073	18.6
民 生 費	651,353	18.1	656,593	18.6	683,257	18.8	807,590	20.8	826,922	20.3
衛 生 費	222,825	6.2	220,367	6.2	191,876	5.3	169,036	4.3	214,041	5.3
農 林 水 産 業 費	476,498	13.2	399,254	11.3	358,928	9.9	375,229	9.6	431,584	10.6
商 工 費	92,213	2.6	82,137	2.3	85,653	2.4	100,839	2.6	128,348	3.2
土 木 費	342,730	9.5	395,843	11.2	313,827	8.6	258,547	6.6	444,339	10.9
消 防 費	124,843	3.5	108,683	3.1	116,275	3.2	113,157	2.9	100,988	2.5
教 育 費	553,703	15.4	468,430	13.2	634,736	17.5	698,077	17.9	457,090	11.2
災 害 復 旧 費	0	0.0	0	0.0	16,501	0.5	0	0.0	0	0.0
公 債 費	643,306	17.9	669,000	18.9	683,956	18.8	725,853	18.7	636,955	15.7
諸 支 出 金	0	0.0	0	0.0	76,597	2.1	0	0.0	0	0.0
予 備 費	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歳 出 合 計	3,597,852	100.0	3,535,801	100.0	3,629,771	100.0	3,889,371	100.0	4,067,137	100.0



特別会計決算額の推移



※平成20年4月から、老人保健は後期高齢者医療特別会計へ移行。



淡水化施設(平成13年供用開始)

その他の特別会計の決算額 (平成21年度)

会計名	歳入 (千円)	歳出 (千円)
農業集落排水事業	21,167	21,167
と畜場	1,091	1,091

地方債現在高の状況

(資料：総務企画課)

(単位：千円)

区 分	平成20年度末 現在高 (A)	平成21年度 発行額 (B)	平成21年度元利償還額			Dの財源内訳		差引現在高 (A)+(B)- (C)=(E)	平成21年度末 財源対策債 現在高	(E)の借入先別内訳	
			元金(C)	利子	計(D)	特定財源	一般財源等			政府資金	その他
1 一般公共事業債	1,578,696	50,700	144,881	33,493	178,374		178,374	1,484,515		1,484,515	
うち財源対策債等	943,319	33,800	69,010	17,270	86,280		86,280	908,109		908,109	
2 公営住宅建設事業債	292,789	44,000	10,674	5,320	15,994	12,918	3,076	326,115		326,115	
3 災害復旧事業債	10,669		1,739	92	1,831		1,831	8,930		8,930	
(1)単独災害復旧事業債	10,669		1,739	92	1,831		1,831	8,930		8,930	
(2)補助災害復旧事業債											
4 教育・福祉施設等整備事業債	566,249		39,598	10,180	49,778		49,778	526,651	82,020	470,326	56,325
(1)学校教育施設等整備事業債	410,535		16,563	8,244	24,807		24,807	393,972	49,939	337,647	56,325
(2)社会福祉施設整備事業債											
(3)一般廃棄物処理事業債	155,714		23,035	1,936	24,971		24,971	132,679	32,081	132,679	
(4)一般補助施設整備等事業債											
うち転貸債											
(5)施設整備事業債(一般財源化分)											
5 一般単独事業債	395,324		81,041	8,203	89,244		89,244	314,283	4,053	150,872	163,411
うち地域総合整備事業債	152,269		48,197	3,783	51,980		51,980	104,072	735		104,072
うち旧地域総合整備事業債(継続事業分)											
うち地域活性化事業債											
うち防災対策事業債											
うち合併特例事業債											
(1)市町村合併特例事業債											
(2)市町村合併推進事業債											
うち臨時地方道路整備事業債	26,146		3,306	760	4,066		4,066	22,840			22,840
うち臨時河川等整備事業債											
うち臨時高等学校整備事業債											
うち地域再生事業債											
うち日本新生緊急基盤整備事業債											
うち臨時経済対策事業債	36,264		4,840	762	5,602		5,602	31,424			31,424
6 辺地対策事業債	1,016,516	215,500	145,681	12,039	157,720		157,720	1,086,335		1,086,335	
7 過疎対策事業債											
8 公共用地先行取得等事業債											
9 行政改革推進債											
10 厚生福祉施設整備事業債	64,199		9,127	2,261	11,388		11,388	55,072		55,072	
11 地域財政特例対策債											
12 退職手当債(～平成17年度分)											
13 退職手当債(平成18年度～)											
14 国の予算貸付・政府関係機関貸付債											
うち転貸によるもの											
15 地域改善対策特定事業債											
うち法第5条によるもの											
16 財政対策債											
17 財源対策債	94,719		8,646	1,656	10,302		10,302	86,073		81,223	4,850
18 減収補てん債 (昭和57・61・平成5～7・9～20年度分)											
19 臨時財政特例債	44,085		11,493	1,993	13,486		13,486	32,592		32,592	
20 公共事業等臨時特例債											
21 減税補てん債	30,435		2,126	469	2,595		2,595	28,309		28,309	
22 臨時税収補てん債	21,096		2,274	428	2,702		2,702	18,822		18,822	
23 臨時財政対策債	1,011,816	160,000	40,784	14,362	55,146		55,146	1,131,032		870,679	260,353
24 調整債(昭和60・61・62・63年度分)											
25 減収補てん債特例分 (昭和50・平成14・19～20年度分)											
26 都道府県貸付金	134,736		33,280	123	33,403		33,403	101,456			101,456
うち予算貸付によるもの	134,736		33,280	123	33,403		33,403	101,456			101,456
27 その他	251,544		10,567	4,362	14,929		14,929	240,977		97,514	143,463
小 計 (1～27)	5,512,873	470,200	541,911	94,981	636,892	12,918	623,974	5,441,162	86,073	4,711,304	729,858
うち財源対策債等	1,038,038	33,800	77,656	18,926	96,582		96,582	994,182		989,332	4,850
うち減収補てん債											
28 特定資金公共投資事業債											
合 計 (1～28)	5,512,873	470,200	541,911	94,981	636,892	12,918	623,974	5,441,162	86,073	4,711,304	729,858

町税の状況 (平成21年度現年課税分)

世帯数 2,368戸 人口 5,477人 (平成22年3月31日現在)

(資料：税務課)

税 目	調定額A (千円)	町民1人当たり (円)	町民1世帯当たり (円)	徴収金額B (千円)	徴収率B/A×100
町 民 税	131,862	24,076	55,685	129,744	98.4
固 定 資 産 税	142,876	26,087	60,336	128,178	89.7
軽 自 動 車 税	13,881	2,534	5,862	13,541	97.6
町 た ば こ 税	30,969	5,654	13,078	30,969	100.0
計	319,588	58,351	134,961	302,432	94.6

国民健康保険税の状況 (平成21年度現年課税分)

(資料：町民福祉課)

調定額A (千円)	1人当たり (円)	1世帯当たり (円)	徴収金額B (千円)	徴収率 B/A×100(%)	被保険者	
					被保険者数(人)	世帯数(戸)
一 般 分 174,530	71,941	141,319	161,602	92.59	2,426	1,235
退職者分 5,823	100,393	253,165	5,236	89.92	58	23
計 180,353	72,606	143,364	166,838	92.51	2,484	1,258

(退職者は混合世帯者含む、被保険者欄は平成22年3月31日現在)

所 得

(資料：平成19年度市町村民所得推計報告書)

町内総生産額の推移

(単位：百万円，％)

	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	実額	構成比	実額	構成比	実額	構成比
第1次産業	1,236	9.0%	1,240	8.7%	1,332	9.3%
農業	1,131	8.2%	1,137	8.0%	1,264	8.8%
林業	1	0.0%	2	0.0%	0	0.0%
水産業	104	0.8%	101	0.7%	68	0.5%
第2次産業	1,404	10.2%	1,685	11.8%	1,276	8.9%
鉱業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
製造業	384	2.8%	348	2.4%	332	2.3%
建設業	1,020	7.4%	1,336	9.4%	944	6.6%
第3次産業	11,705	85.1%	11,970	83.9%	12,296	86.0%
電気・ガス・水道業	397	2.9%	369	2.6%	345	2.4%
卸売・小売業	726	5.3%	711	5.0%	714	5.0%
金融・保険業	223	1.6%	237	1.7%	237	1.7%
不動産業	1,611	11.7%	1,630	11.4%	1,657	11.6%
運輸・通信業	1,325	9.6%	1,313	9.2%	1,324	9.3%
サービス業	3,580	26.0%	3,719	26.1%	3,988	27.9%
政府サービス生産者	3,304	24.0%	3,375	23.7%	3,425	24.0%
電気・ガス・水道業	247	1.8%	310	2.2%	308	2.2%
サービス業	952	6.9%	898	6.3%	908	6.4%
公務	2,106	15.3%	2,168	15.2%	2,208	15.5%
対家計民間非営利サービス生産者	539	3.9%	616	4.3%	606	4.2%
サービス業	539	3.9%	616	4.3%	606	4.2%
輸입品に課される税・関税	130	0.9%	152	1.1%	161	1.1%
(控除) 総資本形成に係る消費税	69	0.5%	79	0.6%	87	0.6%
(控除) 帰属利子	647	4.7%	697	4.9%	686	4.7%
町内総生産	14,333	100.0%	13,757	100.0%	14,291	100.0%

町内総生産

町内総生産とは、一定期間内に町内の生産活動によって、新たに生み出された価値（付加価値）の評価額を示したもので、産出額から原材料・光熱費など生産の過程で消費された財貨・サービスを控除したものに当たる。

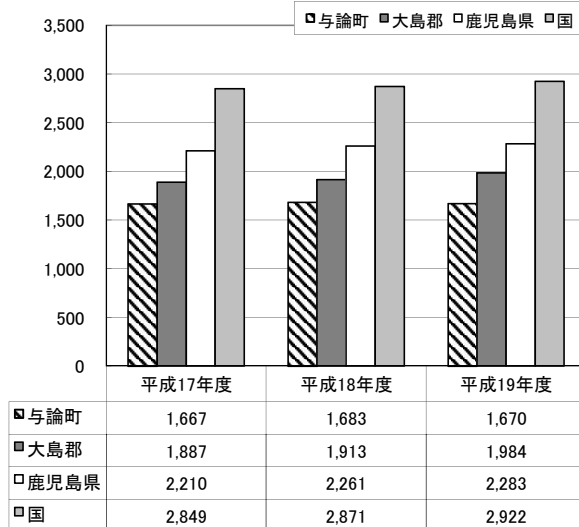
対家計民間非営利サービス生産者

対家計民間非営利サービス生産者とは、他の方法では効率的に提供し得ない社会的、公共的サービスを、利益追求を旨とすることなく家計へ提供する生産者を対家計民間非営利団体といい、これを生産者として把握する場合、対家計民間非営利サービス生産者という。対家計民間非営利団体は、ある特定の目的を遂行するために集まった個人の自発的な団体であり、その活動は通常会員や家計、企業、政府からの寄付、補助金によってまかなわれる。労働組合、政党、宗教団体のほか、私立学校のすべてがこれに含まれる。

帰属利子

帰属利子とは、金融業の生産額を定義するための特殊な帰属計算項目であり、金融業の受取利子及び配当と支払利子の差額を指す。利子は、主として他産業の付加価値から支払われたものであるから、それを再び生産としてとりあげることは二重計算になるが、この帰属計算をせずに金融業の生産額を手数料のみとすると営業余剰あるいは付加価値までも負となり活動実態に合わないものになってしまう。そこで所得推計では、本来の産出額に帰属利子分を加算し、金融業の付加価値がプラスになるようにしたあと帰属利子というダミー産業を設けてふくらんだ分を除くという工夫がなされている。

1人当たり所得の推移



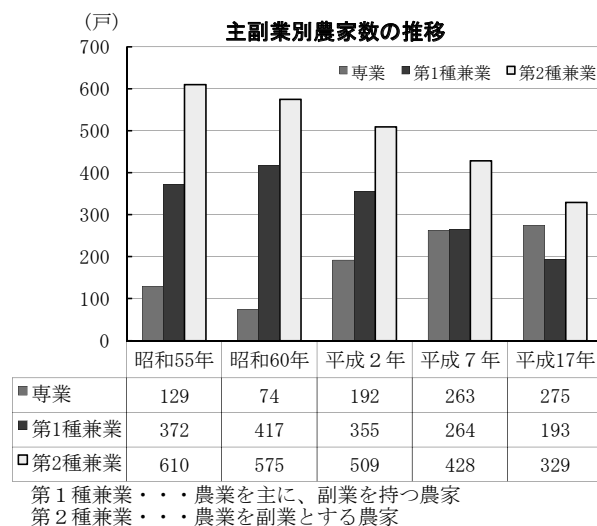
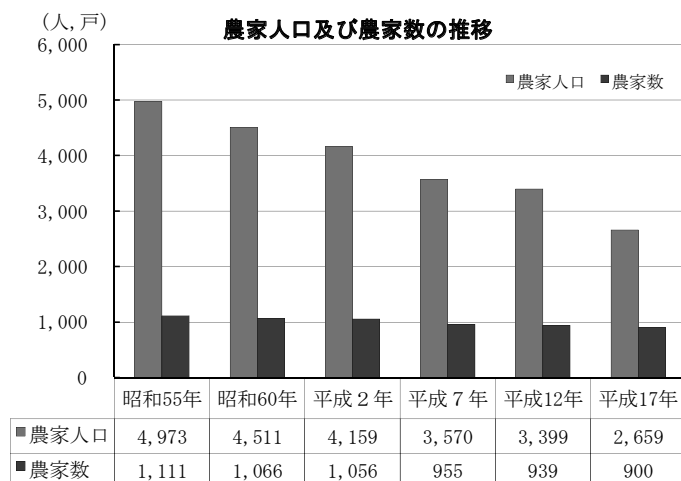
平成19年度大島郡内の所得指標

(単位：人、千円)

市町村名	人口	総 額		人口1人当たり	
		総生産	所得	総生産	所得
奄 美 市	48,156	135,007,861	104,817,160	2,804	2,177
大 和 村	1,934	4,723,295	3,246,014	2,442	1,678
宇 検 村	1,995	8,108,758	4,681,358	4,065	2,347
瀬 戸 内 町	10,385	27,823,842	20,022,607	2,679	1,928
龍 郷 町	6,037	17,336,386	12,313,993	2,872	2,040
喜 界 町	8,397	22,549,401	16,211,920	2,685	1,931
徳 之 島 町	12,679	35,208,495	24,494,902	2,777	1,932
天 城 町	6,793	17,731,442	10,926,529	2,610	1,608
伊 仙 町	6,876	16,778,572	9,985,508	2,440	1,452
和 泊 町	7,317	25,576,147	15,153,779	3,495	2,071
知 名 町	6,856	19,675,037	12,903,548	2,870	1,882
与 論 町	5,625	14,291,380	9,394,065	2,541	1,670
大 島 郡	123,050	344,810,616	244,151,383	2,802	1,984

農 業

(資料：農林業センサス)



平成17年 主副業別農家数及び割合

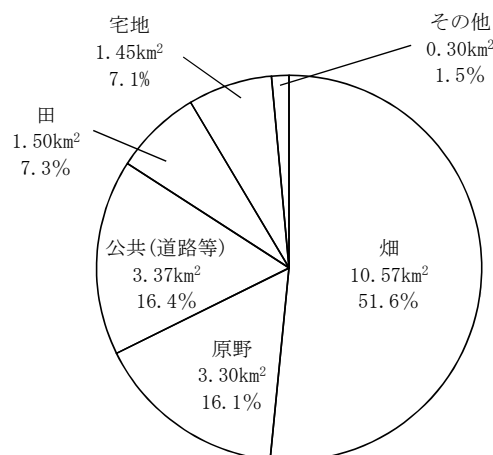
(資料：2005年農林業センサス)

自給的農家	販売農家 797戸 89%			
103戸	専業農家 275戸	兼業農家 522戸 58%		
11%	30.5%	第1種兼業農家 193戸 21%	第2種兼業農家 329戸 37%	

農家数 900戸

土地の利用状況

(資料：平成20年度固定資産税概要調書)



- 与論島の総面積 20.49km²
- 参考メモ (2005年農業センサスから)
 - ・農家戸数 900戸
 - ・農家人口 2,659人
 - ・農家一戸当りの平均経営耕地面積1.027ha

経営規模別農家戸数

(資料：産業振興課)

耕地面積	1戸当り平均面積	0.3ha未満	～1ha	～2ha	～3ha	～5ha	～10ha
948.5ha	1.1ha	10戸	412戸	328戸	63戸	25戸	3戸

担い手農家及び認定農業者数の推移

(資料：産業振興課)

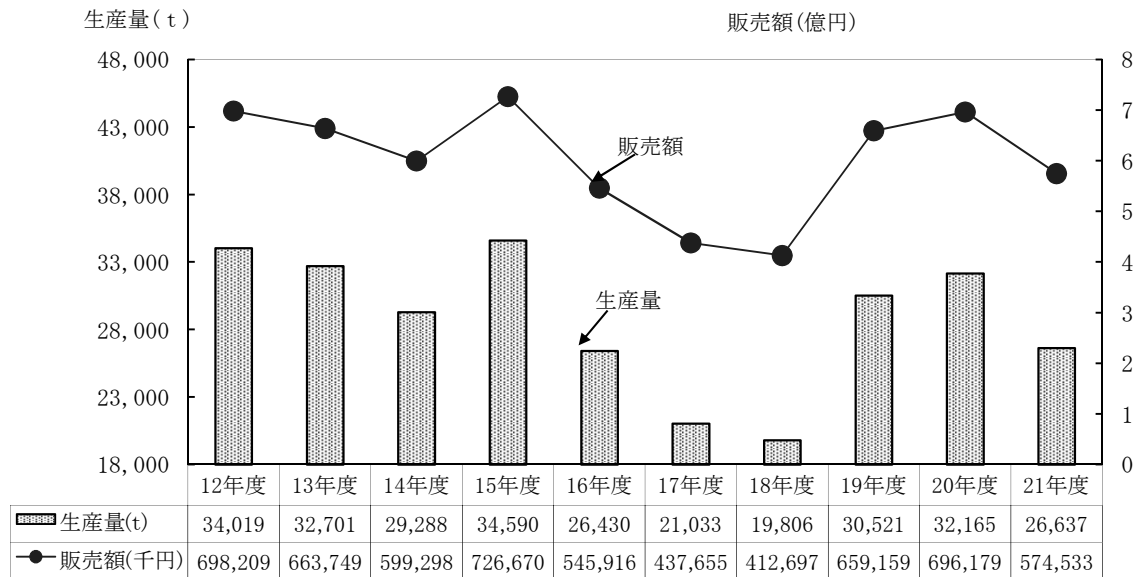
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
認定者	73	92	94	94	125	121	105

与論町農業協同組合の状況 (平成22年3月31日現在)

役員			組合員数		
常勤理事	非常勤理事	非常勤監事	正組合員	準組合員	合計
1	1	1	1,340	296	1,636

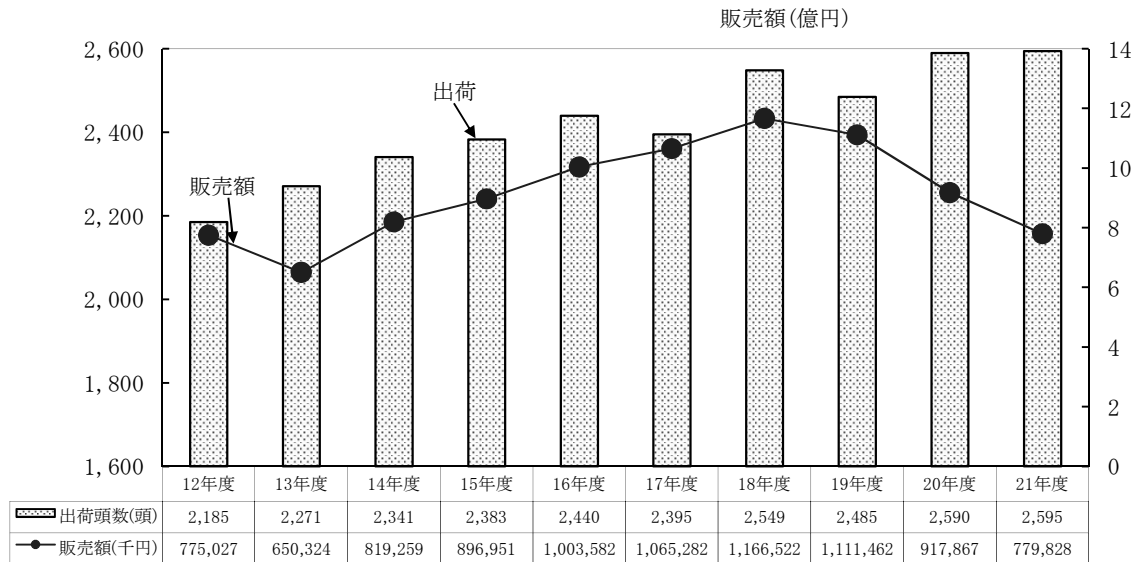
さとうきびの生産量と販売額の推移

(資料：産業振興課)



畜産（子牛、成牛、山羊）の出荷頭数と販売額の推移

(資料：産業振興課)



主要作目10a 当たり販売実績（平成21年度農協共販額）

(資料：産業振興課)

作 目	項 目	生産戸数 (戸)	面積 (h a)	生産量	販売額 (千円)	10 a 当たり	
						生産量	販売額(円)
さとうきび		783	492	26,637 t	574,533	5,414 kg	116,775
畜産（子牛）		333	322	2,482 頭	733,542	1 頭	311,661
畜産（成牛）		333	322	113 頭	6,286	1 頭	55,628
石川さといも		243	65	521 t	253,675	802 kg	390,000
いんげん		181	18	119 t	106,025	661 kg	589,000
にがうり		7	0.7	29 t	13,551	4,143 kg	1,936,000
ソリダゴ		21	3.4	1,645 千本	63,000	48,302 本	1,853,000
キ	ク	10	1.85	499 千本	20,285	27,027 本	1,096,000
ユ	リ	1	0.35	61 千本	10,402	17,429 本	2,972,000
果	樹			11 t	6,472		

平成21年度花卉園芸作物品目別生産実績

(資料：産業振興課)

切り花

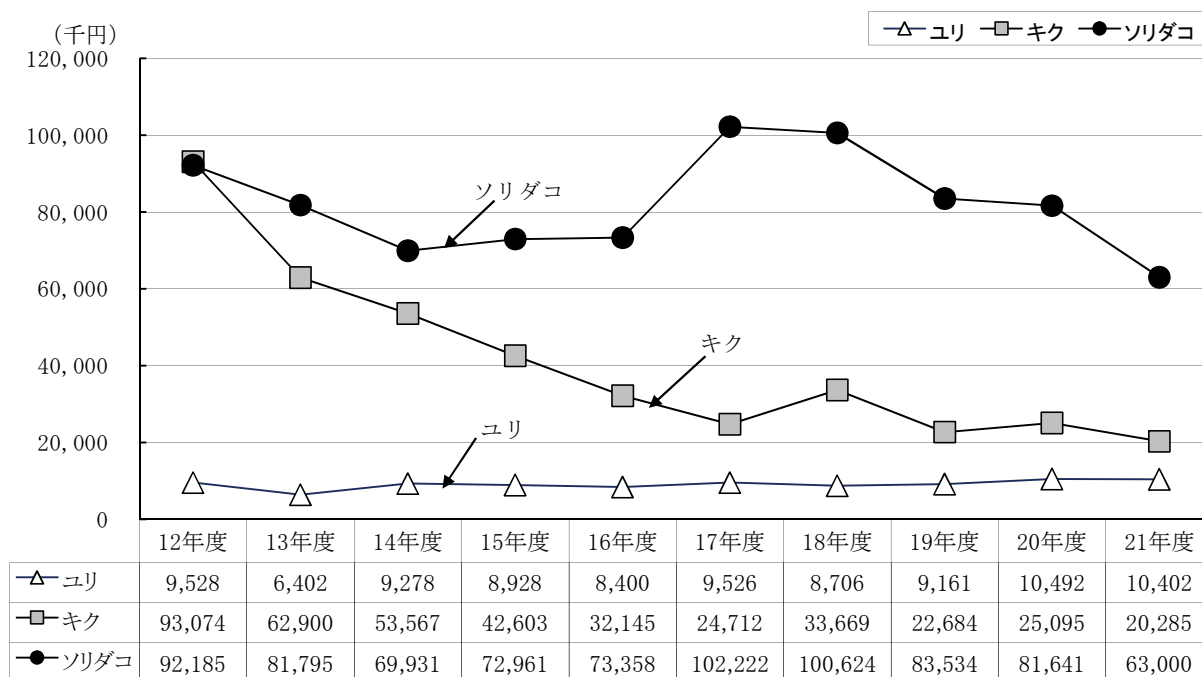
品 目	面積 (ha)	生産量 (千本)	平均単価 (円/本)	販売額 (千円)
ユリ	0.35	61	172	10,402
キク	1.85	499	40	20,285
ソリダコ	3.4	1,645	38	63,000
そ の 他	0.4	225	85	19,128
合 計	6.0	2,430		112,815

輸送野菜

品 目	面積 (ha)	反収 (kg)	生産量 (t)	平均単価 (円/kg)	販売額 (千円)
石川 さといも	65	802	521	467	253,675
いんげん	18	661	119	824	106,025
にがうり	0.7	4,143	29	467	13,551
その他の 野菜	0.5		10		1,853
合 計	84.2		679		375,104

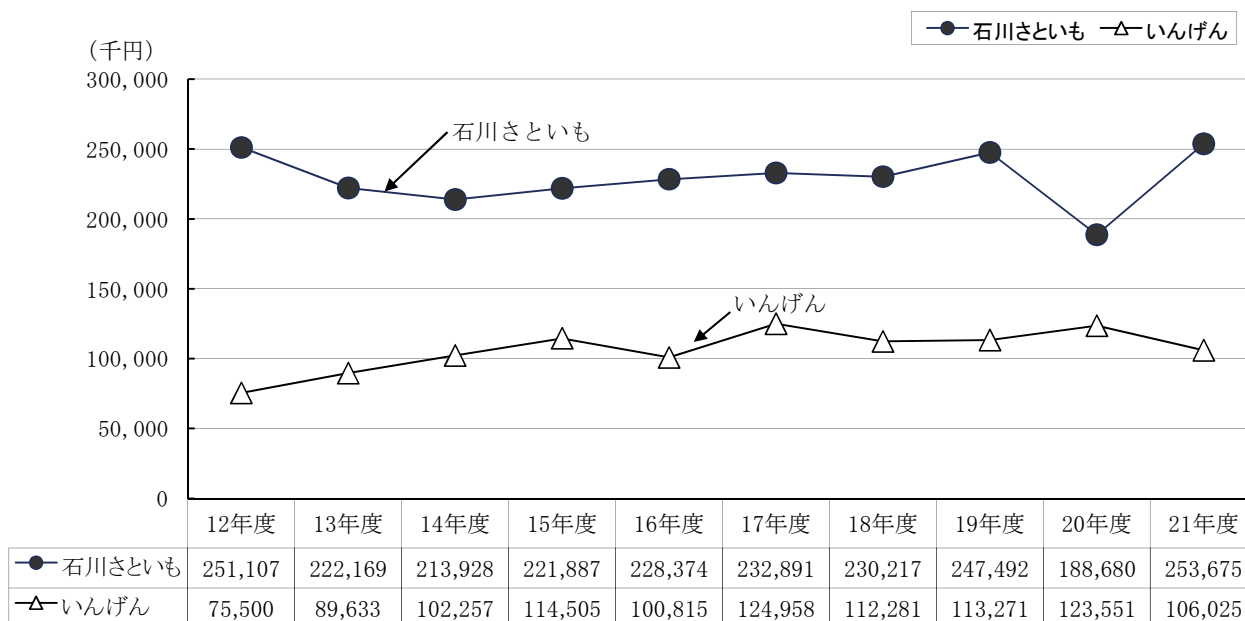
花卉販売額の推移

(資料：産業振興課)



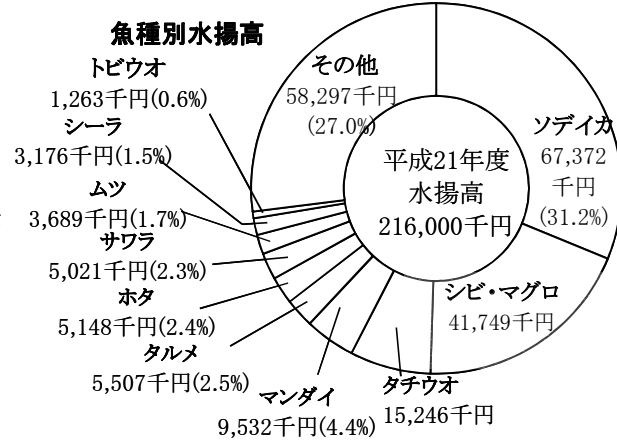
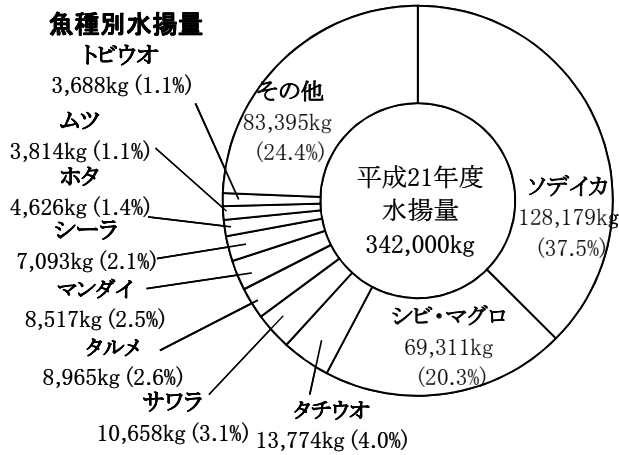
輸送野菜販売額の推移

(資料：産業振興課)

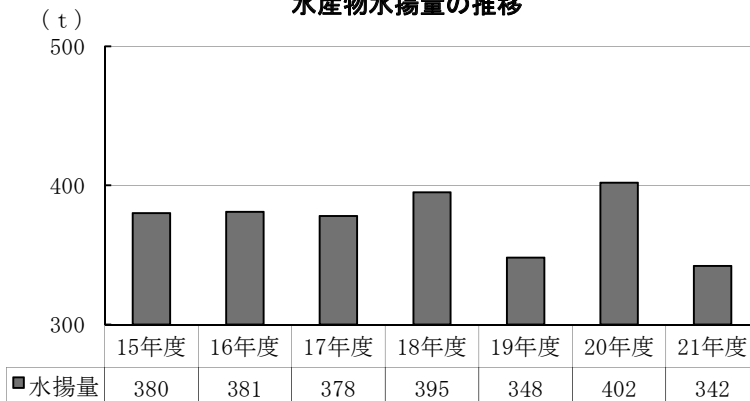


水産業

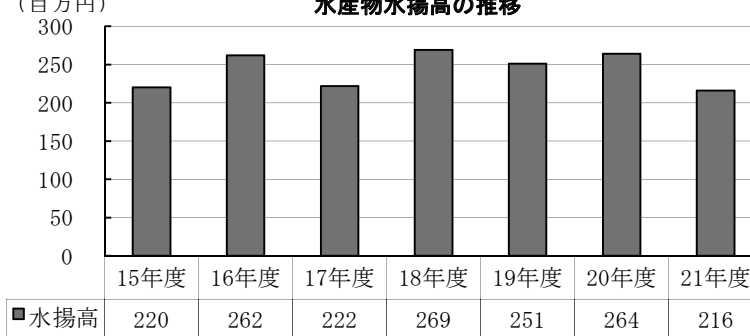
(資料：漁協総会資料)



水産物水揚量の推移



水産物水揚高の推移



漁協朝のセリ市



茶花漁港

与論町漁業協同組合の状況 (平成22年3月31日現在)

役員		組合員数		
理事	監事	正組合員	準組合員	合計
6	3	79	222	301

漁港の現況

(資料：建設課)

漁港名	指定年月日	管理者	外かく施設延長 (m)	係留施設延長 (m)	漁港区域内 海岸線延長 (m)
茶花	昭和49年11月26日	与論町	1429.4	478.5	2,485
麦屋	昭和54年2月13日	与論町	515.0	195.0	1,465

商工業

業種別内訳 (平成22年3月31日現在)

(資料：与論町商工会)

業種 区分	建設業	製造業	運送業	不動産業	卸売業	小売業		
						一般小売店	飲食店	計
事業所数	30	21	8	4	6	119	36	155
商工会員数	23	9	6	4	5	82	22	104

サービス業							その他	合計
ホテル・旅館	自動車整備	観光サービス	理容・美容	クリーニング	公衆浴場	計		
25	11	29	22	2	0	89	9	322
12	9	23	9	1	0	54	5	210

(資料：町民福祉課)

医療施設

与論徳洲会病院(法人)
パナウル診療所(法人)
児玉歯科医院(私設)
サダム歯科医院(私設)
与論中央クリニック(法人)
龍美クリニック(法人)

介護保険関連入所施設(平成22年4月1日現在)

施設名称	設置主体	入所定員(床)	入所者数
特別養護老人ホーム「ヨロン園」	社会福祉法人	55	52
介護老人保健施設「風花苑」	医療法人	88	68
認知症対応型共同生活介護施設「グループホームゆんぬ」	医療法人	9	9

町内の医療保険従事者数(平成22年4月1日現在)

	医師	歯科医師	看護師	助産師	保健師	薬剤師	歯科衛生士	検査技師	放射線技師	計
パナウル診療所	1		3							4
与論中央クリニック	1		2							3
与論徳洲会病院	2		48			2		2	2	56
サダム歯科		1								1
児玉歯科		1					2			3
龍美クリニック	2		3							5
計	6	2	56			2	2	2	2	72

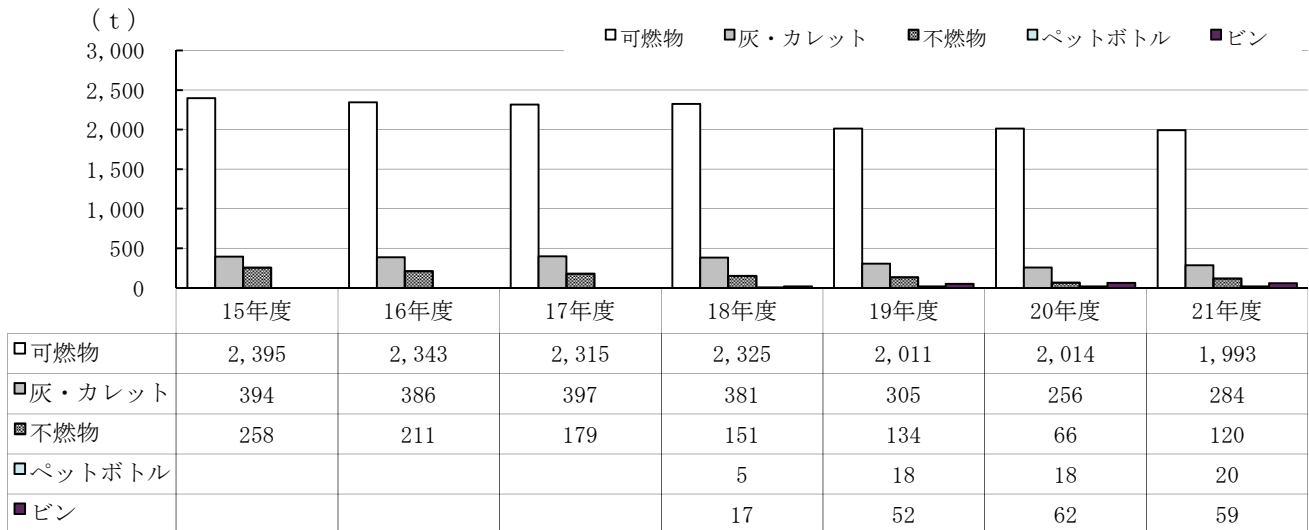
上水道(平成21年度)

(資料：水道課)

給水状況		普及率(%)	配水量(m ³)		
給水件数	給水人口(人)		1日平均	月平均	年総量
2,731	5,498	99.7	1,858	56,501	678,012

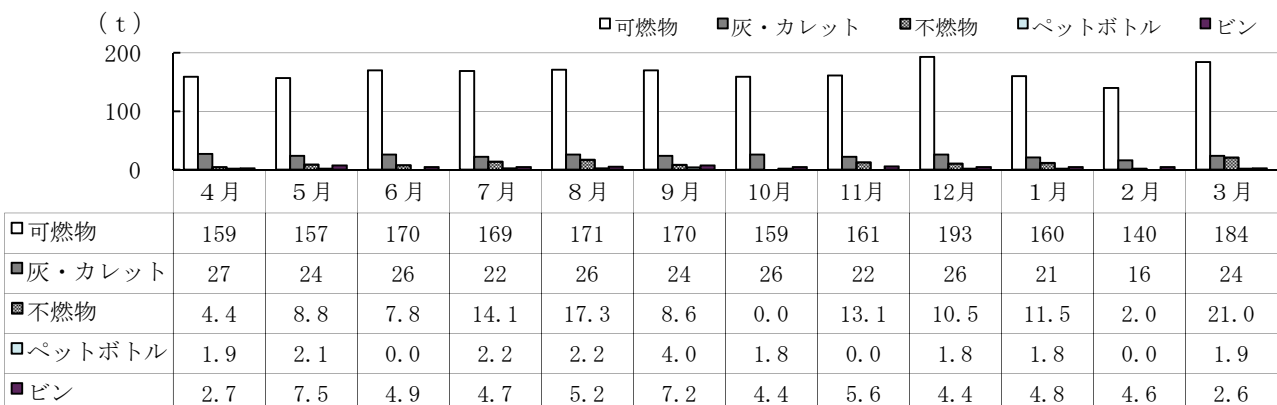
ゴミ処理状況の推移

(資料：環境課)



月別ゴミ処理の状況(平成21年度)

(資料：環境課)



国民健康保険事業実施状況（平成21年度）

資格区分	保険者数 (人)	加入率 (%)	被保険者1人当たり(年度)			
			現年度収納分	国県等支出金	受診率/年	療養諸費
一般被保険者	2,426	44.6	66,612円	139,584円	5.72	233,667円
退職被保険者	58	1.0	90,275円	204,086円	7.93	176,901円
全 体	2,484	45.6	67,165円	141,090円	5.77	232,342円

後期高齢者医療実施状況（平成21年度）

区分	資格者数 (人)	加入率 (%)	総医療費 (円)	被保険者一人当たり	
				受診率/年	療養諸費
後期高齢者医療	1,030	18.49	946,675,650	12.71	919,103

年金受給権者給付状況（平成21年度）（単位：人，円）

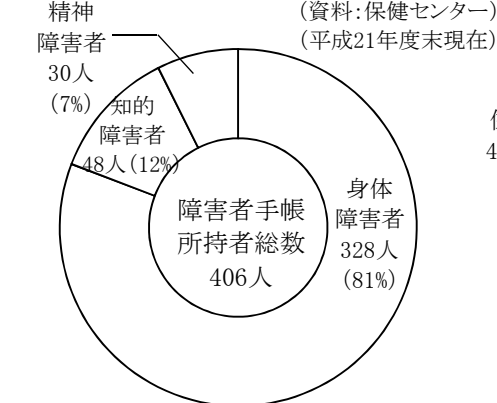
総 計		総計の内訳							
		老齢給付		障害給付		遺族年金		老齢福祉年金	
受給権者数	年金額	受給権者数	年金額	受給権者数	年金額	受給権者数	年金額	受給権者数	年金額
1,752	995,263,100	1,576	844,639,000	160	138,814,000	15	11,404,300	1	405,800

保育所（平成22年4月1日現在）

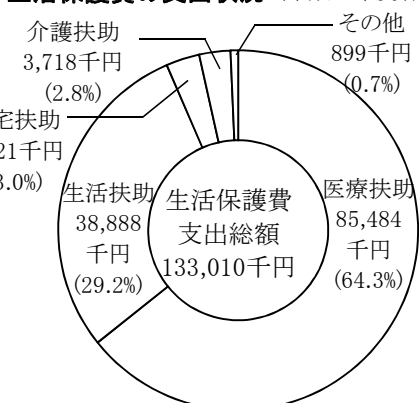
名 称	設置年月日	保育士 (人)	措置児童数(人)		
			男	女	計
与論こども園	昭和48年4月1日	8	19	20	39
茶花こども園	昭和54年5月1日	9	26	23	49
那間こども園	昭和61年4月1日	7	20	18	38
ハレルヤこども園(私立)	昭和55年3月31日	12	37	41	78
総 計		36	102	102	204

こども園児童数は保育部と幼稚園部の合計である

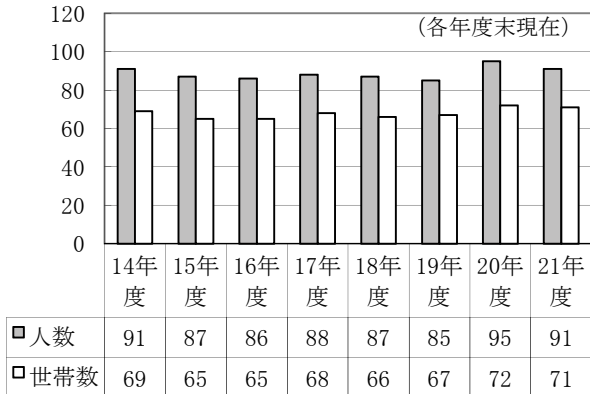
障害者手帳所持者の状況



生活保護費の支出状況（平成21年度各月累計）



生活保護状況の推移（資料:福祉事務所）



(資料:町民福祉課)

国民年金加入状況（平成22年3月31日現在）

被保険者(人)			保険料免除者(人)		
第1号	任意	第3号	法定免除	申請免除	計
1,271	23	326	105	382	487
保険料収納額平成20年度分(千円)				90,992	
収納率(%)					
17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	
62.1	59.8	58.7	56.2	54.2	

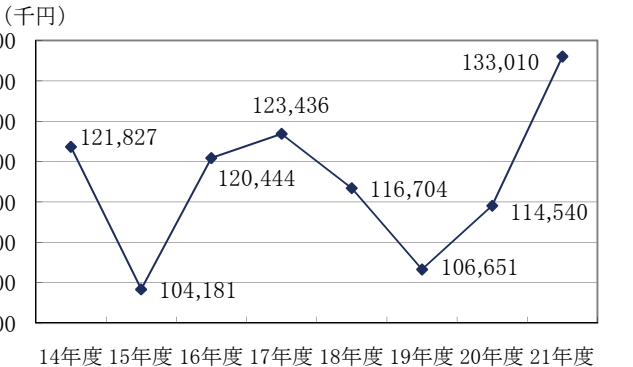
老人の現況（平成22年4月1日現在）

65歳以上一人暮らし老人	65歳以上ねたきり老人		
	人数 (介護認定4・5)	クラブ数	会員数 (60歳以上)
288人	99人	9	527人

生活保護受給者数

	世帯数	人数
医療扶助	748	881
生活扶助	696	949
住宅扶助	311	342
介護扶助	253	253
その他(教育等)	84	84

扶助費支出額



(資料：教育委員会)



小学校

学 校 名	教職員	学級数	児童数		
			男	女	計
与 論 小 学 校	14	7(1)	48(2)	48	96(2)
茶 花 小 学 校	16	8(2)	77(2)	62(2)	139(4)
那 間 小 学 校	13	6	36	44	80
合 計	43	21(3)	161(4)	154(2)	315(6)

※ () は特別支援学級の内数

中学校

学 校 名	教職員	学級数	生徒数		
			男	女	計
与論中学校	21	7(1)	98(1)	82	180(1)

※ () は特別支援学級の内数

中学校卒業者の進路状況

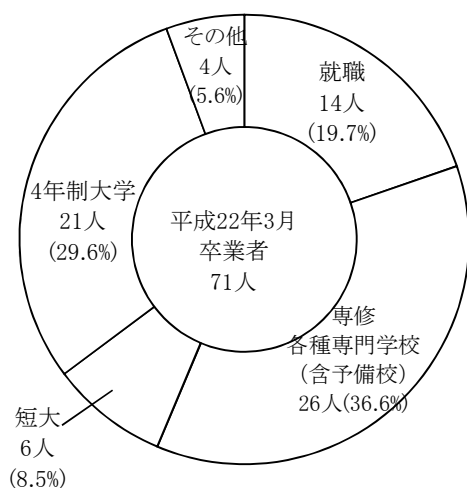
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
卒業者(人)	82	70	72	51	70	61
進学者(人)	82	70	72	51	69	61
進学率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	98.6	100.0

鹿児島県立与論高等学校 (平成22年4月7日現在)

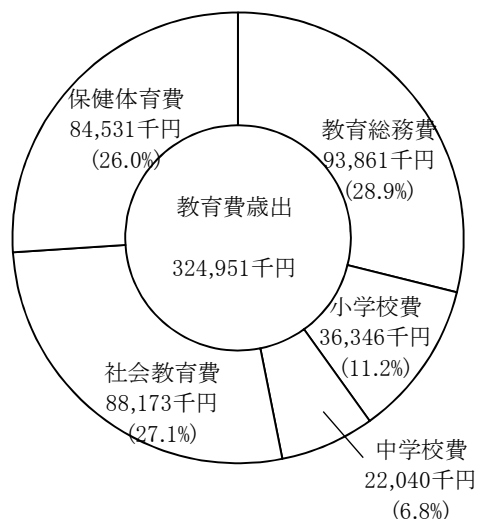
(資料：与論高等学校)

学 年	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1 年	2	75	2	67	2	72	2	46	2	63	2	53
2 年	2	77	2	75	2	67	2	73	2	43	2	58
3 年	2	77	2	76	2	74	2	67	2	71	2	41
計	6	229	6	218	6	213	6	186	6	177	6	152
教職員	26		26		26		28		28		29	

高校卒業者の進路状況 (資料：与論高等学校)



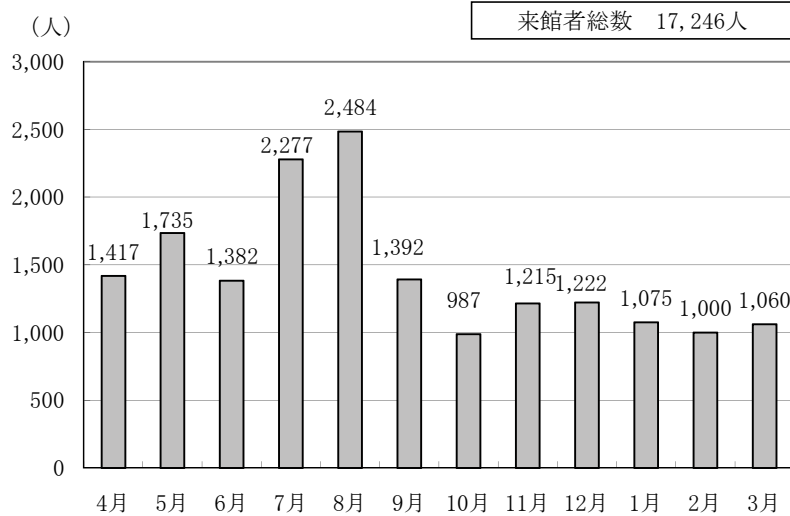
教育予算 (平成22年度当初予算) (資料：教育委員会)



社会・文化

町立図書館の来館者数（平成21年度）

（資料：町立図書館）



県内住民1人当りの貸出率ベスト10

（平成21年度）

（資料：県図書館統計）

順位	市町村名	種別	貸出冊数
1	くりの（湧水）	図書館	11.53冊
2	喜界	図書館	8.00冊
3	知名	図書館	7.70冊
4	与論	図書館	7.20冊
5	徳之島	図書館	7.12冊
6	和泊	図書館	6.28冊
7	出水	図書館	5.48冊
8	志布志	図書館	5.19冊
9	指宿	図書館	5.11冊
10	始良	図書館	4.83冊

町立図書館の概況

昭和59年3月完成、同年5月開館

開館時間：午前10時～午後6時30分

定休日：月曜日

職員数：5名（臨時職員含む）

構 造	敷地面積	建築面積	述べ床面積	総事業費
鉄筋コンクリート造り3階建	1,432㎡	571㎡	1,200㎡	208,341千円

各室の面積（事務室を除く）

一般閲覧室	児童閲覧室	1階書庫	学習室	研究室	視聴覚室	所蔵能力
221㎡	126㎡	72㎡	48㎡	18㎡	114㎡	約5万冊



移動図書館車「くじら号」



中央公民館でのエイサー教室

中央公民館の概況

大ホール（舞台含む）	料理室	2階集会室	パソコン室	印刷室	研修室	和室
266㎡	81㎡	162㎡	93㎡	25㎡	177㎡	96㎡

機器室	事務室ほか
20㎡	210㎡

公民館教室（平成22年度）

（資料：中央公民館）

書 道	クラシックギター	日 本 舞 踊	琉 球 舞 踊	茶 道
ペ ン 字 ・ 硬 筆	三味線（初級・中級）	奄 美 歌 謡	ゆ ん ぬ 太 鼓	エ イ サ ー
絵 画	大 正 琴	書 道	か な 書 道	ゆ ん ぬ 染 織
生 花 教 室	フ ラ ダ ン ス			

指定文化財

名 称	種 別	所在地	指定年月日	所有者	備 考
与 論 十 五 夜 踊 り	国指定重要無形民俗文化財	城	平成5年12月13日	与論十五夜踊り	永禄4年(1561年)に創作され、それ以後踊りつがれています。
	県指定無形民俗文化財		昭和46年5月31日	保 存 会	
屋 川 （ ヤ ゴ ー ）	町指定史跡名勝天然記念物	城	昭和51年2月20日	和泉松應	洞くつ井戸
城 跡	〃	城	昭和51年2月20日	神社法人	
ア マ ン ジ ョ ー	〃	東区	昭和51年2月20日	与 論 町	
大 道 那 太 遺 物	町 指 定 有 形 文 化 財	朝戸	昭和51年2月20日	大田栄一	弓術に優れた豪傑で、城跡下に墓があります。
	母屋、高倉、舟おき石、力石、着物入ヒツ、刀箱、手水バチ				

神 社

名 称	所在地	管理者	内 容
地 主 神 社	城 (与論城跡)	神社法人	「島の守護神」と「城の守り神」を合祀して建立されました。毎年旧暦の3、8、10月の15日に豊年祈願祭典を挙行し、十五夜踊りを奉納します。
高 千 穂 神 社	朝 戸	神社法人	明治2年、大島諸島とともに足戸村、高尾半田に本郡13社の内の1社、高千穂神社を建立。祭神は「高天原より日向国に天降り給う」中津国の主となった神です。この神社は明治維新により、民心を改め、旧来の風習を打破、神道に帰しかつ島中安穩、五穀豊穡、人畜繁栄のために建立されたものです。
琴 平 神 社	城 (与論城跡)	神社法人	文政7年(1824年)代官鎌田新之のはからいにて樋口石垣上に小祀を建立。金比羅大権現をまつり、天保6年(1835年)現地に移転されました。明治4年琴平神社と改名、明治42年(1909年)菅原神社を合祀して、金比羅大権現、菅原道真公、市杵島姫之命を合祀しています。
按司根津栄神社	朝 戸	市来盛廣	明治41年按司根津栄とその兄弟の三柱の神を合祀して建立、旧暦の3、6、10月の15日に祭が行われます。根津栄は無頼に英傑で、特に弓術に優れた琉球軍と戦い、勇壮な死をとげたと言われています。遺跡として、神社のそばの弓場に足跡、矢立の穴や馬のひづめの跡、戦死した地のソテツなどがあります。

郷土芸能・祭典・行事

月 日	新・旧歴	行事名	内 容
1月1日	新・旧	正 月	若水を汲み、新年を祝い、正月願(海難水難事故者、変死者の粗霊祭)が行われます。
1月2日	新・旧	ヘークヨイ	大工の道具祝い。
1月5日 ～7日	旧	ハミゴー遊び	一重一瓶で酒宴したり、若い男女は晴着を着て太鼓、三味線で唄・踊りを楽しみ、学童はくい打ち、風揚げなど競います。昔は十五夜踊りと並んで島民の最高の楽しみでした。現在は一部集落を中心に伝承されています。
1月7日	新	七日節句	ジュー(お産のときに使用するイロリ)の前につるしておいた豚肉、魚、大根等を入れ、ミシジマイ(炊き込みごはん)をつくり、祖先に供え、互いにパラジ(親類)配って食べます。
1月15日	新・旧	チキナー	この日は、ムジ(田芋)とサツマイモを練り合わせたご飯を作り、神棚に供え、昼食に食べます。
1月23日	旧	二十三夜待	月待(月神信仰)。主として城、朝戸地区で行われました。
3月3日	旧	浜下り	アンガー(新生児)の浜下り。男子はティル(竹細工のビク)・女子はソイガマ(小さなザル)を持ち、ヨモギ餅や弁当を作って海に行き、アンガーの成長を祝います。
3月15日	旧	豊年祭 (十五夜踊り)	年3回地主神社(与論城跡)境内で行われます。龍神に雨乞いをし、五穀豊穡、人畜の繁栄を祈願します。この祭りで奉納される与論十五夜踊りは、大和風(1番組)・琉球風(2番組)の踊りで構成され、前者の勇壮と後者の優雅が対照的になっています。
3月27日 3月29日	旧	ナヌカミシャー クヌカミシャー	埋葬されてから3年～5年目の遺体を掘り出して改葬し、祖先の霊を祝います。
5月5日	旧	五月節句	端午の節句。新生児には吸物を準備し、近親者が集い祝います。

月 日	新・旧歴	行事名	内 容
7月13日 ～15日	旧	イヤーブジ	祖先祭、33年忌に満たない霊に対しては一人ひとりにご飯、お汁、その他のご馳走を三度供えます。33年忌の終わった祖先に対しては洗い米（水で洗った米）を供えます。本土のお盆に相当します。
7月16日	旧	シバサシ	家の四つ門にシバ（茅）をさし、魔よけをします。
7月16日 ～19日	旧	シニグ祭 (隔 年)	氏族または血縁の者が寄り集まって、豊年と氏族の幸運を祈願する祭りです。
8月8日	新・旧	88のお祝い	88歳の年を祝います。
8月15日	旧	豊年祭 (十五夜踊り)	3月15日と同様です。踊りがすむと、獅子舞があり、そのあと綱引きがあります。各家庭ではトゥンガ（にぎり団子）を作り、祖先とお月さまに供え、学童はお月さまに供えたトゥンガを取ってまわります。
8月23日	新・旧	八月願	大工・鍛冶屋・ヤブ（占師）・役人等のように、農業、漁業以外の職業に従事した人々の慰霊祭です。
8月27日 8月29日	旧	ナヌカミシャー クヌカミシャー	3月と同様にこの日改葬が行われます。
10月15日	旧	豊年祭 (十五夜踊り)	3月・8月と同様ですが、神社境内で相撲大会が行われます。
12月下旬	新	シーブ	年の暮れ29日までに親類、近隣、知人などに贈り物をします。かつては思い慕う男女の間では、女から染花のテサジ（手拭）、男からはカンザシ等が贈られました。
12月31日	新	大晦日 (トシヌユル)	夕方に墓参りをし、浜から持ち帰った白砂を家の庭にまきます。



与論十五夜踊り（一番組）

一番組の踊り言葉は室町時代の狂言等から取材し、その踊り方は本土風のものとなっている。



与論十五夜踊り（二番組）

二番組の踊り言葉は与論島をはじめ奄美諸島や沖縄のものから取材し、その踊り方は沖縄風の舞踊を取り入れている。



シニグ祭

豊年や氏族の幸運を祈願する「シニグ祭」が行われるようになったのは、与論島に稲作が始められた古代に属するとみられている。現在は隔年で祭事が行われており、旧暦7月17日が本祭となる。



シニグ祭

少年たちは手にデエク（和名：ダンチク）を持ち、祭りの構成員の家々を周り、「ウウベエ ハアベエ」と唱えながら屋内を左回りに3回祓い回る「屋内祓（ヤアウチパライ）」を行う。

沖永良部与論地区広域事務組合与論分遣所（平成22年4月1日現在）

所在地	建物	業務開始日
与論町茶花1190	鉄筋2階建塔屋2階487.065㎡	昭和58年10月1日


所長	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	消防車	救急車	指令車
1人	4人	3人	0人	4人	1台	2台	1台

与論町消防団（平成22年11月1日現在）

（資料：総務課）

条例定数：72名

実員：64名（うち女性消防団員4名）

団長	副団長(1)		茶花分団長	副分団長(1)	班長(3)	団員(24)
			与論分団長	副分団長(1)	班長(3)	団員(12)
			那間分団長	副分団長(1)	班長(3)	団員(11)
※ () は実員						

消防施設及び設備（平成22年11月1日現在）

防火水槽	消火栓	消防車	可搬ポンプ
76基	67基	6台	2台

火災・救急状況



平成16年度事業で購入した10トン水槽車

火災（平成22年9月末現在）

種別 年	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計
17	3					2	5
18						2	2
19	1		1			1	3
20	1		1			1	3
21						1	1
22	1					2	3

救急出動件数及び搬送人員（平成22年9月末現在）

事故種別 年 区分		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
平成17年	救急出動	1		4	10	2	3	16	1	5	75	19	145
	搬送人員	1		4	7	1	3	15	1	4	72	18(17)	135
平成18年	救急出動			1	10	1	2	23	2	2	90	30	147
	搬送人員			1	10	1	2	21	2	2	87	26(24)	134
平成19年	救急出動			1	9		3	17	1	2	114	29(24)	160
	搬送人員			1	9		3	16	1	1	102	28(23)	154
平成20年	救急出動				18		6	14	2	3	95	15(15)	162
	搬送人員				20		6	12	2	0	90	15(15)	148
平成21年	救急出動				7	1	1	23	1		69	21(19)	159
	搬送人員				7	1	1	23	2		66	21(19)	151
平成22年	救急出動				5		1	20		4	103	25(16)	158
	搬送人員				5		1	20		4	93	23(16)	146

※（ ）は島外への搬送人員

交通・運輸

空 港

名称	所在地	敷地面積	着陸帯		供用年月日	管理者
			長さ	幅		
与論空港	与論町立長	23.4ha	1,320m	120m	昭和51年5月1日	鹿児島県

利用状況（平成21年度）

（資料：空港管理事務所）

事業所	便	機種	搭乗可能 人員(人)	路線	距離(km)	時間(分)	便数/日	平均 利用率
日本エアコミューター (JAC)	定期	Q400	74	鹿児島ー与論	576	75	1	46.1%
琉球エアコミューター (RAC)	〃	DHC-8 Q300	39 50	那覇ー与論	110	35	1(4)	52.8%
日本エアコミューター (JAC)	〃	SAAB 340B	36	※奄美ー与論 沖永良部ー与論	203 55	40 25	1 1	19.2%

※SAAB機は沖永良部経由で奄美大島まで運航

※便数の（ ）は最盛期の便数

港湾状況

（資料：建設課）

	漁 船 溜	接岸能力	本 港	接岸能力
供利地区	防波堤(4ヶ所) 240m 物揚場 110m(-2.0m) 船揚場 15m	10 t 未満	岸壁 190m(-9.0m) 臨港道路 644m(幅6.5m) 128m(幅5.0m)	10,000 t
茶花地区	防波堤(2ヶ所) 60m 物揚場 50m(-2.0m) 船揚場 30m	10 t 未満	岸壁 190m(-9.0m)、90m(-5.5m) 防波堤 450m 臨港道路 175m(幅5m)、1,360m(幅5m) 1,114m(幅6.5m) 離岸堤 188.7m(2基)	3,000t～ 10,000t

船舶就航状況

航路区間	事業所	運航船舶	総トン数
鹿児島～名瀬～亀徳～和泊～与論～本部～那覇	マリックスライン	クイーンコーラル8	4,945 t
〃	〃	クイーンコーラルプラス	5,910 t
〃	マルエーフェリー株式会社	フェリーなみのうえ	6,586 t
〃	〃	フェリーあけぼの	8,083 t
神戸～大阪～宮崎～名瀬～亀徳～和泊～与論～那覇	〃	琉球エクスプレス	6,266 t

道路の状況（平成22年4月1日現在）

（単位：m，％）

（資料：建設課）

県 道				町 道			農 道		
実延長	舗装済	舗装率	永久橋	実延長	舗装済	舗装率	実延長	舗装済	舗装率
13,190	13,190	100	2	132,617	116,539	86.6	10,599	3,056	28.83

交通事故死傷者の状況（与論幹部派出所管内）（平成22年9月末現在）

（資料：与論幹部派出所）

	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
発生件数	19	10	13	28	12	11	7	10	5	5
死 者	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
傷 者	20	10	14	30	11	11	7	16	5	4

宿泊施設（平成22年4月1日現在）

（資料：商工観光課）

ホテル	旅館・民宿・ペンション	ビジネスホテル	総 収 容 人 員
5	17	1	一般客 1,348人、団体客 1,675人

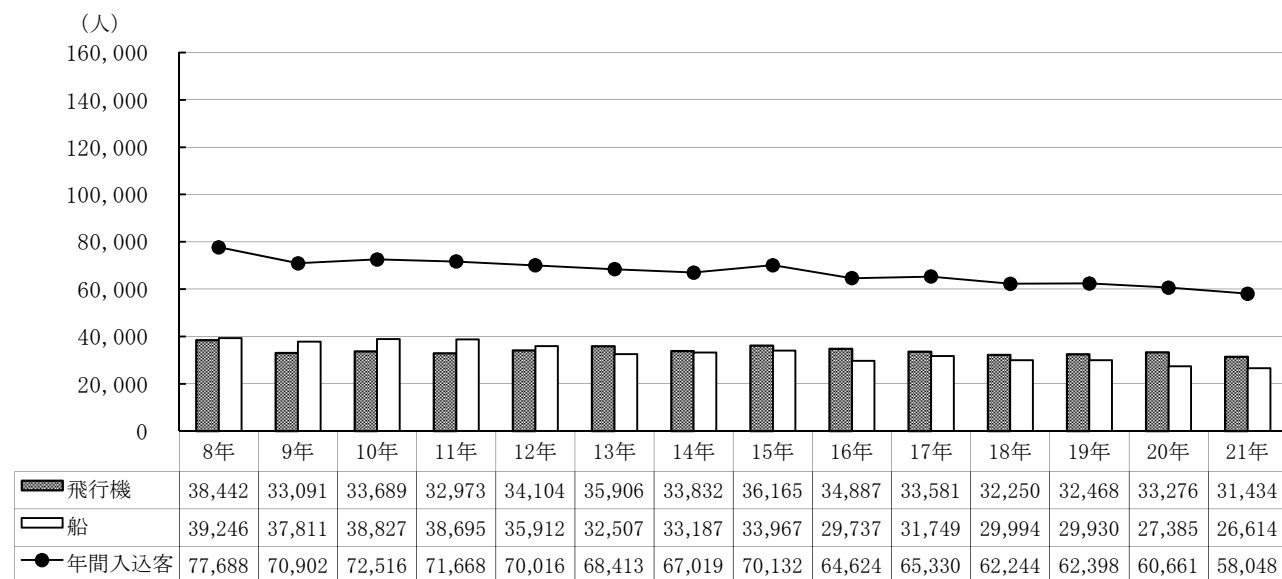
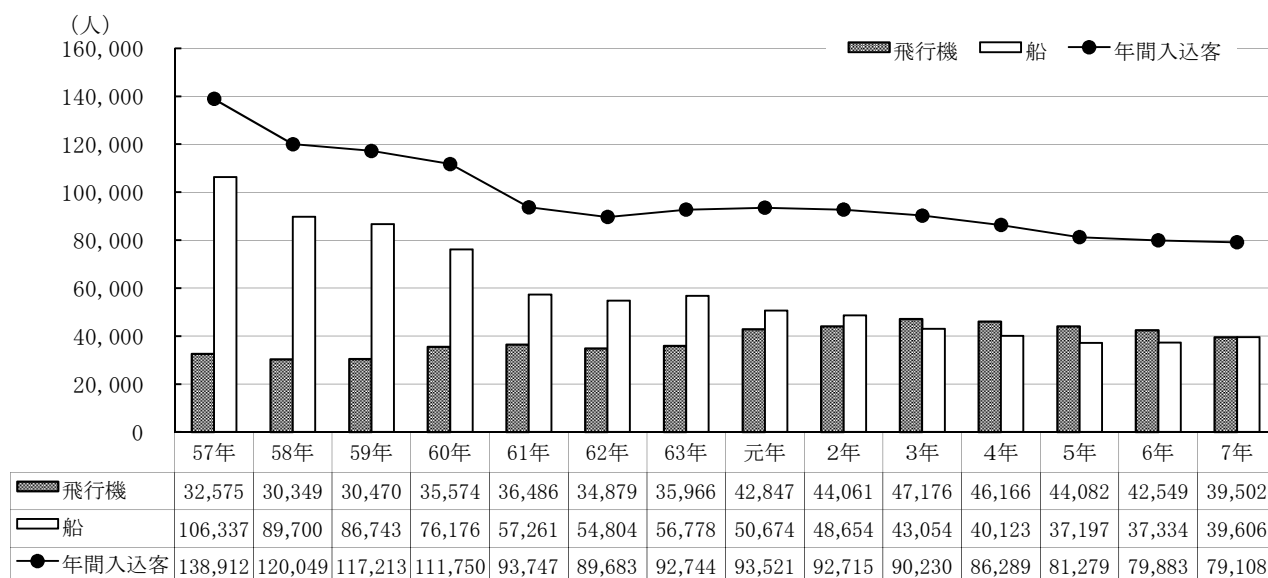
島めぐり

（資料：商工観光課）

バ ス	島内1周県道沿いのバスが北回り、南回りそれぞれ約1時間おきに運行。 （自由乗降可・金額200円）
タ ク シ ー	島内で2業者、8台が運行し、貸切による島内観光もできます。 （タクシー所有台数：南陸運5台、大洋タクシー3台）
レ ン タ ル	自転車、オートバイ、自動車など業者が多く、どこでも利用できます。
そ の 他	グラスボート、ウインドサーフィン、スキューバダイビングなど、マリンスポーツが気軽に楽しめます。

旅行客入込数の推移

（資料：商工観光課）



ヨロンマラソン結果（第12回大会～）

（資料：商工観光課）

※第1回大会：(1992年)平成4年2月9日(日)

	第12回大会		第13回大会		第14回大会		第15回大会	
開催日	'03 平成15年3月9日(日)		'04 平成16年3月7日(日)		'05 平成17年3月6日(日)		'06 平成18年3月5日(日)	
スタート時刻	フル8時 ハーフ10時		フル8時 ハーフ10時		フル8時 ハーフ10時		フル8時 ハーフ10時	
制限時間	7時間		7時間		7時間		7時間	
エントリー	1,230人 (フル662人・ハーフ498人・リレー70人)		1,254人 (フル651人・ハーフ537人・リレー66人)		1,188人 (フル593人・ハーフ501人・リレー90人)		1,187人 (フル573人・ハーフ508人・リレー105人)	
出走者	1,070人 (フル578人・ハーフ422人・リレー70人)		1,106人 (フル566人・ハーフ475人・リレー65人)		1,026人 (フル509人・ハーフ437人・リレー80人)		1,039人 (フル502人・ハーフ437人・リレー100人)	
ひまわりキッズ	118人		102人		70人		77人	
完走者	1,037人 (男694人・女343人)		1,073人 (男676人・女397人)		980人 (男598人・女382人)		1,004人 (男643人・女361人)	
完走率	97.1%		97.0%		95.5%		96.6%	
ボランティア	1,100人(概算)		1,068人		1,022人		1,176人	
最高年齢	82歳		83歳		84歳		85歳	
最少年齢	14歳		13歳		13歳		13歳	
天候	晴れ		曇り		曇り		晴れ	
スタート時気温	14.5℃		12.6℃		9.9℃		15.9℃	
最高気温	17.6℃		15.2℃		12.8℃		20.9℃	
男子総合優勝	フル 野本哲晃 (福岡県 27歳) 2:29:20	ハーフ 扶川典靖 (鹿児島県 26歳) 1:14:37	フル 野本哲晃 (福岡県 28歳) 2:29:53	ハーフ 幸福恵吾 (鹿児島県 25歳) 1:16:33	フル 中木原毅尚 (鹿児島県 23歳) 2:34:32	ハーフ 森本幸司 (熊本県 24歳) 1:13:55	フル 中木原毅尚 (鹿児島県 24歳) 2:33:17	ハーフ 森本幸司 (熊本県 25歳) 1:15:25
女子総合優勝	フル 今江七々美 (滋賀県 37歳) 3:15:47	ハーフ 近藤美和子 (静岡県 15歳) 1:31:55	フル 道場守里 (神奈川県 34歳) 3:25:30	ハーフ 青山典子 (千葉県 38歳) 1:33:39	フル 道場守里 (神奈川県 35歳) 3:36:49	ハーフ 青山典子 (千葉県 39歳) 1:33:12	フル 安田 祥江 (三重県 28歳) 3:08:08	ハーフ 中川 令子 (東京都 31歳) 1:34:18
リレー優勝	与論高校3年生 与論町 2:47:37		沖縄国際大学Aチーム 沖縄県 2:25:40		知覧茶倶楽部 鹿児島県 3:15:17		しばしの別れ 2:54:22	

	第16回大会		第17回大会		第18回大会		第19回大会	
開催日	'07 平成19年3月4日(日)		'08 平成20年3月9日(日)		'09 平成21年3月8日(日)		'10 平成22年3月7日(日)	
スタート時刻	フル8時 ハーフ10時		フル8時 ハーフ10時		フル8時 ハーフ10時		フル8時 ハーフ10時	
制限時間	7時間		7時間		7時間		7時間	
エントリー	1,182人 (フル519人・ハーフ583人・リレー80人)		1,356人 (フル571人・ハーフ669人・リレー110人)		1,458人 (フル608人・ハーフ712人・リレー135人)		1,361人 (フル604人・ハーフ634人・リレー120人)	
出走者	1,069人 (フル464人・ハーフ525人・リレー80人)		1,195人 (フル491人・ハーフ599人・リレー105人)		1,290人 (フル525人・ハーフ630人・リレー135人)		1,193人 (フル513人・ハーフ560人・リレー120人)	
ひまわりキッズ	67人		59人		57人		72人	
完走者	1,036人 (男659人・女377人)		1,144人 (男531人・女613人)		1,269人 (男760人・女509人)		1,160人 (男585人・女455人・リレー120人)	
完走率	96.9%		95.7%		98.3%		97.2%	
ボランティア	1,127人		1,327人		1,287人		1,558人	
最高年齢	83歳		84歳		83歳		84歳	
最少年齢	13歳		14歳		13歳		13歳	
天候	晴れ		曇り		曇り		雨	
スタート時気温	20.8℃		18.0℃		17.0℃		19.3℃	
最高気温	24.0℃		22.6℃		21.2℃		19.8℃	
男子総合優勝	フル 中木原毅尚 (鹿児島県 25歳) 2:46:32	ハーフ 幸福恵吾 (鹿児島県 28歳) 1:15:54	フル 橋本 謙司 (千葉県 24歳) 2:39:42	ハーフ 中木原毅尚 (鹿児島県 26歳) 1:18:48	フル 中木原毅尚 (鹿児島県 27歳) 2:41:07	ハーフ 本高和弘 (鹿児島県 51歳) 1:22:07	フル 熊田亮介 (千葉県 22歳) 2:44:45	ハーフ 小山強志 (栃木県 38歳) 1:13:57
女子総合優勝	フル 野村 泰子 (兵庫県 41歳) 3:24:58	ハーフ 川 照美 (鹿児島県 43歳) 1:35:18	フル 林田 智美 (東京都 32歳) 3:22:21	ハーフ 川 照美 (鹿児島県 44歳) 1:34:35	フル 中元美紀 (滋賀県 32歳) 3:19:52	ハーフ 川 照美 (鹿児島県 45歳) 1:34:22	フル 伊藤夕子 (埼玉県 37歳) 2:58:23	ハーフ 花岡洋子 (福岡県 41歳) 1:35:09
リレー優勝	チーム和歌 3:13:49		チームV・F・C 3:20:53		与論高校野球部 3:10:03		芝浦工業大学 3:33:23	

与論町のあゆみ

1266 年（文永 3 年）

- ・琉球国の英祖王に納貢し、琉球所属となる

1405 年（応永 12 年）－1416 年（応永 23 年）

- ・琉球北山王の三男王舅が与論城を築く
- ・城は北山滅亡のため未完成となる

1525 年（大永 5 年）

- ・又吉按司、与論島主となる

1561 年（永禄 4 年）

- ・十五夜踊り始まる

1609 年（慶長 14 年）

- ・島津の琉球入り、尚寧王降伏

1610 年（慶長 15 年）

- ・薩摩藩の所属となる
- ・直川智、サトウキビを初めて大島の大和浜に栽培

1612 年（慶長 18 年）

- ・大島本島に代官を設置

1616 年（元和 2 年）

- ・徳之島に代官を設置
- ・屋口与論主藩主任官となる

1682 年（天和 2 年）

- ・蘇鉄植栽始まる

1690 年（元禄 3 年）

- ・沖永良部島代官、徳之島より分離

1691 年（元禄 4 年）

- ・（人口 1,294 人）

1719 年（享保 4 年）

- ・琉球王へ贈物

1721 年（享保 6 年）

- ・（人口 2,130 人）

1778 年（安永 7 年）

- ・痘瘡（天然痘）が大流行し、大飢饉となり多数の死者が出る

1781 年（安永 10 年）

- ・台風が襲来、大飢饉となり、琉球より米を拝借

1799 年（寛政 11 年）

- ・（人口 3,357 人）

1800 年（寛政 12 年）

- ・琉球国王へ贈物

1808 年（文化 5 年）

- ・唐（中国）船、茶花村大浦へ漂着

1809 年（文化 6 年）

- ・大干ばつのため、翌年まで大飢饉となる

1815 年（文化 12 年）

- ・（人口 3,530 人）

1819 年（文政 2 年）

- ・沖永良部島にサトウキビの植付け始まる

1824 年（文政 7 年）

- ・金比羅神社を樋口石垣上に建立
- ・（人口 4,248 人）

1825 年（文政 8 年）

- ・天然痘が流行

1826 年（文政 9 年）

- ・天然痘が流行し、大飢饉となり多数の死者が出る

1829 年（文政 12 年）

- ・大島、砂糖を総買上げ、金銭取り引き始まる

1831 年（天保 2 年）

- ・（人口 3,180 人）

1835 年（天保 6 年）

- ・金比羅神社を上城へ移す
- ・麻疹（はしか）流行

1838 年（天保 9 年）

- ・（人口 3,203 人〈男 1,617 人、女 1,586 人〉）

1845 年（弘化 2 年）

- ・（人口 3,700 人〈男 1,878 人、女 1,822 人〉）

1851 年（嘉永 4 年）

- ・疫病が流行し、250 人が死亡

1852 年（嘉永 5 年）

- ・（人口 3,888 人〈男 1,994 人、女 1,894 人〉）

1869 年（明治 2 年）

- ・高千穂神社を建立

1871 年（明治 4 年）

- ・地主神社を建て氏神をまとめて祭る

1873 年（明治 6 年）

- ・鶴政信氏初代戸長に就任
- ・砂糖の売買が自由になる

1875 年（明治 8 年）

- ・沖永良部支庁の管轄となる
- ・大水間切と東間切に戸長役場を設置
- ・一般の人に名字がつけられる
- ・学問所（ナンカル学校）開校（児童数 90 人、教師 5 人）
- ・（人口 5,683 人）

1877 年（明治 10 年）

- ・西南戦争に 2 名出兵

1878 年（明治 11 年）

- ・風葬が禁止される
- ・亭野学校（与論小の前身）開校
- ・チフスやコレラが大流行
- ・与論郵便局を城に設置（局長 平直和加氏）

1879 年（明治 12 年）

- ・汽船が初めて入港

与論町のあゆみ

1880 年（明治 13 年）

- ・戸長役場を城にまとめる
- ・上野應介氏戸長に就任（21 年間に在職）
- ・田畑の検地・登録を実施

1882 年（明治 15 年）

- ・税金が金銭化される

1884 年（明治 17 年）

- ・十五夜踊りが中止される

1886 年（明治 19 年）

- ・天然痘・台風・火災の被害により飢饉

1887 年（明治 20 年）

- ・与論簡易小学校となる

1890 年（明治 23 年）

- ・沖永良部警察署与論駐在所を設置
- ・十五夜踊りが復活

1894 年（明治 27 年）

- ・日清戦争に 9 名出兵

1897 年（明治 30 年）

- ・簡易小学校を廃止、与論尋常小学校となる

1898 年（明治 31 年）

- ・猛烈な台風が襲来し 4 年間大飢饉となる

1899 年（明治 32 年）

- ・足戸に巡査駐在所を設置
- ・裁判所出張所を城に設置
- ・長崎県口之津への移住始まる



長崎県口之津町での与論館落成式（平成 7 年 2 月）

与論館：明治 32 年に集団移住して石炭積出し労務に従事し、口之津繁栄の一端を支えてくれた与論の人達が使った当時の住宅（与論長屋）を館内に縮小再現した他、与論との縁を物語る様々な資料を展示し、その絆を永く伝えようと築いた館。

1900 年（明治 33 年）

- ・与論尋常小学校の分校を茶花と那間に開校

1901 年（明治 34 年）

- ・梅山藤里氏戸長に就任

1904 年（明治 37 年）

- ・日露戦争に 25 名出兵

1905 年（明治 38 年）

- ・戸長役場を城から茶花に移転
- ・時千良氏戸長に就任

1906 年（明治 39 年）

- ・赫助熊氏戸長に就任

1908 年（明治 41 年）

- ・与論村となり村役場を置く
- ・龍田佐隆史氏初代村長に就任
- ・第 1 回村会議員選挙実施

1909 年（明治 42 年）

- ・菅原神社を琴平神社に合祀する

1911 年（明治 44 年）

- ・茶花・麦屋（西区）間に道路開通
- ・大野好文氏県会議員に当選

1912 年（大正元年）

- ・龍宮辰次郎氏村長に就任

1914 年（大正 3 年）

- ・第 1 次世界大戦に 10 名出兵

1915 年（大正 4 年）

- ・龍中興氏村長に就任

1916 年（大正 5 年）

- ・与論島一周道路が開通
- ・皆吉平安禎氏村長に就任

1917 年（大正 6 年）

- ・麦屋と立長から分立して城字ができる

1918 年（大正 7 年）

- ・山下平志氏村長に就任

1919 年（大正 8 年）

- ・麦屋から西区と東区に分かれる
- ・茶花尋常小学校と那間尋常小学校が独立

1920 年（大正 9 年）

- ・足戸・古里・那間から分立して叶字ができる
- ・（第 1 回国勢調査による人口 7,916 人）

1922 年（大正 11 年）

- ・電報が打てるようになる

1924 年（大正 13 年）

- ・山喜見政氏村長に就任

1925 年（大正 14 年）

- ・（国勢調査による口 7,661 人）

1926 年（大正 15 年）

- ・村立青年訓練所与論小内に開設

1927 年（昭和 2 年）

- ・鉛筆・ノートが使われ始める

1930 年（昭和 5 年）

- ・（国勢調査による人口 8,227 人）

与論町のあゆみ

1931 年（昭和 6 年）

- ・動力製糖工場（昭和工場）や精米所ができる
- ・脱穀機が初めて使われる
- ・満州事変に横山治興氏などが出兵

1933 年（昭和 8 年）

- ・茶花に消防団を結成
- ・黒田正孝氏村長に就任

1935 年（昭和 10 年）

- ・青年訓練所を廃し青年学校を開設
- ・（国勢調査による人口 8,630 人）

1936 年（昭和 11 年）

- ・村営汽船与論丸が与論・沖縄間に就航

1937 年（昭和 12 年）

- ・田中上安氏村長に就任
- ・村立青年学校が独立
- ・大金久に防砂林を植樹

1939 年（昭和 14 年）

- ・青年学校も義務制となる
- ・初めて自動車走る（東亜燐鉱株式会社）

1940 年（昭和 15 年）

- ・（国勢調査による人口 7,889 人）

1941 年（昭和 16 年）

- ・尋常小学校を国民学校に改称
- ・黒田正孝氏村長に再就任
- ・村立青年学校が現在の与論中に完成
- ・太平洋戦争始まる

1943 年（昭和 18 年）

- ・満州移民開拓団先遣隊出発（団長・伊東佐江吉氏）
- ・足戸に郵便局を開設

1944 年（昭和 19 年）

- ・満州移民開拓団第 1 陣出発
- ・金井清実氏村長に就任
- ・初空襲を受け与論丸沈没

1945 年（昭和 20 年）

- ・3 月 23 日から 3 日間の空襲を受け、茶花商店街や茶花校焼ける 同 23 日那間校、26 日与論校や青年学校焼ける 4 月 4 日琴平神社焼ける（全島で約 370 世帯が焼ける）8 月 15 日終戦、10 月に米軍初来島
- ・9 月 1 日、3 小学校入学式を挙行
- ・（人口 7,913 人）

1946 年（昭和 21 年）

- ・アメリカ合衆国統治下に置かれ、日本と分離（2 月 2 日）、帰国した満州移民団肝属郡田代町に再移住

1947 年（昭和 22 年）

- ・青年学校を廃止し、村立実業高校を開校
- ・相撲・柔道協会を設立（会長 坂元原澄氏）
- ・酒工場（有村酒造）できる
- ・与論村漁業会設立（会長 坂元原澄氏）

1948 年（昭和 23 年）

- ・新しく小学校と改称
- ・山本喜久政氏村長に就任

1950 年（昭和 25 年）

- ・農協に自動車が入る（戦後初）
- ・（人口 8,141 人）

1951 年（昭和 26 年）

- ・与論（茶花に 150 灯）に初めて電灯がともされる（南発電所）

1952 年（昭和 27 年）

- ・龍野通雄氏村長に就任

1953 年（昭和 28 年）

- ・奄美群島が日本に復帰（12 月 25 日）



奄美本土復帰を祝う児童生徒たち

1954 年（昭和 29 年）

- ・足戸を朝戸に改称
- ・与論中学校に鉄筋校舎が完成
- ・与論小学校に PTA による付属幼稚園を開設
- ・小祝幸一氏、小笠原からカボチャの種子を持ち込み栽培を始める
- ・与論村漁協協同組合と改称

1955 年（昭和 30 年）

- ・診療所を開設
- ・山下平志氏村長に再就任
- ・（国勢調査による人口 7,851 人）

1956 年（昭和 31 年）

- ・与論小学校に鉄筋校舎が完成

1957 年（昭和 32 年）

- ・村営発電所できる
- ・那間小学校に鉄筋校舎が完成

1958 年（昭和 33 年）

- ・茶花小学校に鉄筋校舎が完成
- ・電話が開通
- ・テレビが見られるようになる
- ・あけぼの丸が就航
- ・奄美大島信用金庫与論支店開設

1959 年（昭和 34 年）

- ・久留富森氏村長に就任

1960 年（昭和 35 年）

- ・タクシーが走るようになる（南タクシー）
- ・（国勢調査による人口 7,792 人）

1961 年（昭和 36 年）

与論町のあゆみ

- ・プロパンガスの使用始まる（吉田プロパン）

1962 年（昭和 37 年）

- ・バスが走るようになる（南陸運）
- ・大型製糖工場ができる
- ・兼母灯台ができる
- ・一週道路が県道になる

1963 年（昭和 38 年）

- ・1 月 1 日、町制施行「与論町」となる
- ・龍野通雄氏町長に就任
- ・南島開発 K. K. 与論工場操業開始
- ・江が島栈橋竣工
- ・大干ばつ続く
- ・小中学校で学校給食始まる
- ・町体協ができ、第 1 回町民体育大会開催

1964 年（昭和 39 年）

- ・茶花・立長に町で初めての簡易水道施設ができる

1965 年（昭和 40 年）

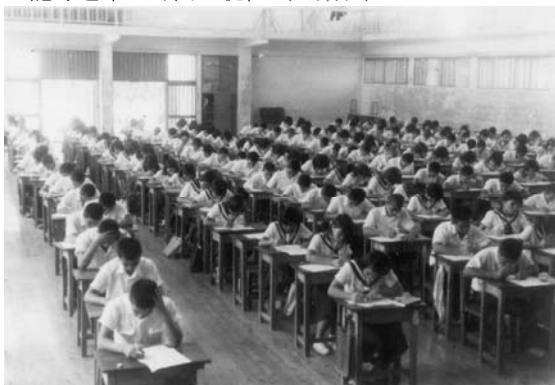
- ・与論中学校に 2 階校舎と体育館完成
- ・照国丸が就航
- ・麦屋地区簡易水道施設ができる
- ・観光協会創設
- ・(国勢調査による人口 7,181 人)

1966 年（昭和 41 年）

- ・県道の舗装工事始まる
- ・町章を制定
- ・与論町商工会ができる

1967 年（昭和 42 年）

- ・大島高等学校与論分校開校（中学校内）
- ・役場新庁舎落成
- ・三州高等経理学校開校
- ・農業構造改善事業開始
- ・町民 440 人、東京見学（波の上丸）
- ・龍野通雄氏町長に就任（2 期目）



与論中学校体育館で行われた大島高等学校与論分校
第一回入学試験

1968 年（昭和 43 年）

- ・茶花小体育館が完成
- ・大島高等学校与論分校現在地へ移転
- ・麦屋へき地出張診療所開設
- ・あまみ丸就航
- ・消防ポンプ自動車購入

1969 年（昭和 44 年）

- ・農村振興センター（現中央公民館）完成
- ・田代町と姉妹盟約を結ぶ

- ・那間簡易郵便局開設
- ・那間へき地診療所開設
- ・大島高等学校与論分校に本校舎が完成

1970 年（昭和 45 年）

- ・ミカンコミバエ航空防除
- ・琴平神社の大鳥居が完成
- ・町営電気事業大島電力へ合併
- ・ハイビスカス丸就航
- ・大島紬織工養成所落成
- ・那間簡易水道施設ができる
- ・朝戸保育所が落成
- ・(国勢調査による人口 7,096 人)

1971 年（昭和 46 年）

- ・県立与論高等学校が独立
- ・赤崎灯台できる
- ・各小学校に町立幼稚園を併設
- ・十五夜踊り、県の無形民俗文化財に指定
- ・那間小学校に体育館が完成
- ・龍野通雄氏町長に就任（3 期目）

1972 年（昭和 47 年）

- ・地域集団電話が開設
- ・喜山盛治氏、藍綬褒章を受章
- ・ごみ焼却炉ができる
- ・ひかり丸、クイーンコーラル就航
- ・太陽国体採火式と炬火リレー举行
- ・与論高校に体育館が完成
- ・与論空港測量開始
- ・麦屋へき地保健福祉館落成
- ・沖縄が祖国復帰
- ・与論高校学級増（3 学級）

1973 年（昭和 48 年）

- ・町制施行 10 周年記念式典を举行
- ・大島電力、九州電力へ合併
- ・与論空港工事始まる
- ・与論小体育館完成
- ・国民宿舎海中公園センター「ヨロン」完成
- ・与論島総合学術調査実施
- ・大島地区総合社会教育研究会開催
- ・与論町名誉町民に有村治峯氏と西田当元氏を推戴
- ・キビ価格引き上げ決起大会に 76 名上京

1974 年（昭和 49 年）

- ・徳永運輸大臣来島
- ・与論島国定公園指定
- ・県道舗装完了
- ・町田原長氏、勲 6 等単光旭日章を受章
- ・与論高校に武道館が完成
- ・サトウキビ価格 1 トン当たり 15,000 円となる

1975 年（昭和 50 年）

- ・学校給食センターが完成
- ・坂元原澄氏町長に就任
- ・エメラルドあまみ・クイーンコーラルⅡ就航
- ・与論小創立 100 周年記念式典を举行
- ・大内森業氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・(国勢調査による人口 6,971 人)

1976 年（昭和 51 年）

- ・与論空港が開港
- ・木村運輸大臣、金丸県知事、屋良沖縄県知事が来島

与論町のあゆみ

- ・台風 17 号で大被害を受ける（災害救助法適用）
- ・特別養護老人ホーム「ヨロン園」完成
- ・与論高校創立 10 周年記念式典を挙行
- ・郡内市町村議員大会開催
- ・大島地区老人スポーツ大会開催
- ・龍野通雄氏、大原里奥氏、勲 5 等瑞宝章を受章



与論空港開港

1977 年（昭和 52 年）

- ・航空郵便始まる
- ・台風 9 号で大被害を受ける（災害救助法適用）
- ・あけぼの丸就航
- ・東亜国内航空鹿児島直行便が開通
- ・サトウキビ価格 1 トン当たり 18,000 円となる
- ・全国ダイヤル即時通話が開通
- ・鹿児島与論会 50 周年記念式典を挙行



製糖終了祝い

1978 年（昭和 53 年）

- ・与論中学校創立 30 周年記念式典を挙行
- ・立長へき地保健福祉館が完成
- ・茶花小学校特別教室（3 階建て）完成
- ・県民体育大会奄美大島地区大会を与論で開催
- ・那覇、与論間空路開設実現（南西航空）
- ・与論郵便局創立 100 周年記念式典を挙行
- ・青年会館完成
- ・町旗・町民歌制定
- ・百合ヶ浜周辺海浜地を町一括管理
- ・竹内得吉氏、勲 5 等双光旭日章を受章
- ・満州開拓団犠牲者の慰霊碑建立

1979 年（昭和 54 年）

- ・与論校区農村基盤総合整備事業始まる
- ・新しい診療所がオープン
- ・防災無線を設置
- ・医師住宅を建設
- ・茶花保育所を開設
- ・与論民間放送中継局の建設
- ・与論港初接岸（供利）

- ・与論町で車座対談開催（鎌田要人県知事来島）
- ・与論町交通安全協会が発足
- ・山市郎氏町長に就任
- ・名誉町民に山下平志氏、龍野通雄氏を推戴
- ・川畑森城氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・南西航空日発運航
- ・南西航空沖永良部就航（月・水・金）
- ・那間へき地保健福祉館落成



大型フェリーの与論港初接岸（供利）を祝う式典

1980 年（昭和 55 年）

- ・茶花地区公民館完成
- ・朝戸児童館が完成
- ・東十条小学校（東京）と与論町 3 小学校姉妹校盟約協定
- ・茶花小、与論小に夜間照明施設設置
- ・古里青少年センターが完成
- ・交通信号機を設置（農協前）
- ・波之上丸が就航
- ・（国勢調査による人口 7,320 人）

1981 年（昭和 56 年）

- ・叶生活館が完成
- ・那間小附属幼稚園舎が完成
- ・那間小、与論中に夜間照明施設設置
- ・山下平志氏、勲 6 等瑞宝章を受章
- ・喜山盛治氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・地籍調査を完了
- ・「第 2 次与論町振興計画基本構想」策定
- ・名誉町民に伊藤佐江吉氏を推戴
- ・役場 3 階増築

1982 年（昭和 57 年）

- ・伝染病棟が完成
- ・城青少年センターが完成
- ・与論高校に小体育館が完成
- ・ニュークィーンコーラルが就航
- ・与論中に特別教室が完成（LL 教室・図書室など）
- ・浄水場が完成
- ・岩山新二氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・大島地区社会福祉大会開催
- ・谷山慶介氏郡町村議会議長に就任
- ・南三島老人スポーツ大会開催
- ・農協選果場完成
- ・サトウキビ価格 1 トン当たり 21,450 円となる

1983 年（昭和 58 年）

- ・防災センター完成
- ・ヨロンパナウル王国を建国する
- ・新しいゴミ焼却炉施設が完成
- ・町制施行 20 周年記念式典を挙行（町民憲章・町花・

与論町のあゆみ

町木・町民音頭を制定)

- ・川畑浩一氏町長に就任
- ・沖永良部与論地区消防組合与論分遣所が完成
- ・茶花生活館が完成
- ・サトウキビ価格1トン当たり21,470円となる
- ・ドルニエ機（日本エアコミューター）が奄美大島・与論間に就航



ヨロシパナウル王国建国パレード

1984年（昭和59年）

- ・消防自動車（10トンタンク車）購入
- ・町立図書館が完成
- ・総合運動場が完成
- ・自治公民館制度が発足
- ・大島支部消防操法大会開催
- ・ギリシャ国ミコノス市と姉妹盟約締結（川畑浩一町長以下26人がミコノス島を親善訪問）



ミコノス島を親善訪問

1985年（昭和60年）

- ・ミコノス市・与論町姉妹盟約締結記念式典を挙（ギリシャ国駐日大使コンスタンティノス・ディベロプロス氏来島）
- ・茶花小・那間小学校創立85周年記念式典を挙
- ・町内全小組合長研修会を初めて開催
- ・ドルニエ機（日本エアコミューター）が徳之島・与論間に就航
- ・（国勢調査による人口7,222人）
- ・プリシアリゾートヨロン

1986年（昭和61年）

- ・与論中学校の新体育館完成
- ・那間保育所が完成
- ・製糖史上最高の64,859トンを生産
- ・定期船「ありあけ」が就航
- ・総合運動場に夜間照明施設を設置
- ・定期船「クイーン・コーラル7」が就航
- ・与論高等学校創立20周年記念式典挙
- ・第32回奄美地区総合社会教育研究大会を解説
- ・上野應介翁頌徳碑を建立

1987年（昭和62年）

- ・多目的運動広場（テニスコート）が完成
- ・特別養護老人ホーム「ヨロン園」創立10周年記念祝典を挙
- ・鎌田要人県知事が来島し車座対談開催
- ・第41回県民体育大会第28回大島地区大会を開催
- ・福富雄氏町長に就任
- ・川畑茂氏、勲5等双光旭日章を受章

1988年（昭和63年）

- ・川畑芽出雄氏、藍綬褒章を受章
- ・市内局番1桁から2桁となる
- ・益田元甫氏、勲4等瑞宝章を受章
- ・与論中学校新校舎が完成（普通教室・多目的教室・給食コンテナ室など）
- ・農業集落排水施設工事着工
- ・与論町誌発刊

1989年（平成元年）

- ・防災無線施設（戸別受信機）整備
- ・与論高校テニス部全国大会初出場
- ・与論幹部派出所移転新築落成
- ・戸別受信機による定時放送（広報サービス）開始
- ・与論・田代姉妹町盟約20周年記念行事開催
- ・与論港（茶花地区）完成開港
- ・フェリーあけぼの（新造船）就航
- ・那間小全日本健康優良学校表彰受賞（4度目）
- ・谷山慶介氏、勲5等双光旭日章を受章
- ・栽原富吉氏、勲6等单光旭日章を受章

1990年（平成2年）

- ・那間小プール完成
- ・全郡議会議員大会開催
- ・肉用牛飼養頭数2,000頭突破
- ・（国勢調査による人口6,704人）

1991年（平成3年）

- ・保健センター完成
- ・琴龍橋・翔龍橋開通
- ・平田敏秀氏町長に就任
- ・有村泰治氏、勲6等单光旭日章を受章
- ・第3次与論町総合振興計画策定

1992年（平成4年）

- ・第1回ヨロンマラソン開催
- ・B&G海洋センター（プール・艇庫）オープン
- ・プロ野球元ロッテオリオンズの投手村田兆治氏来島講演
- ・ヨットウーマン今給黎教子氏来島講演
- ・元気通りを宣言（朝戸集落）
- ・ゆんぬ青年エイサー結成
- ・第1回ダイビングフェスティバル開催



与論町のあゆみ

1993 年（平成 5 年）

- ・旧巡視船「あまみ」品覇海岸沖に沈める
- ・サザンクロスセンターオープン
- ・水産物加工施設完成
- ・総合育苗センター完成
- ・第 1 回元気七夕祭開催（朝戸集落）
- ・砂美地来館完成
- ・県民体育大会サッカー大島地区優勝
- ・町制施行 30 周年記念式典を挙げる
- ・クイーンコーラル（新造船）就航
- ・与論十五夜踊り、国の重要無形民族文化財に指定
- ・肉用牛総飼養頭数 3,000 頭突破
- ・山下勇夫氏、勲 5 等双光旭日章を受章
- ・竹下茂徳氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・永野平治氏、勲 5 等瑞宝章を受章

1994 年（平成 6 年）

- ・移動図書館車巡回始まる
- ・与論高校弓道場完成
- ・若松光茂氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・石川サトイモ集出荷施設完成
- ・与論町老人保健福祉計画策定
- ・フェリーなみのうえ（新造船）就航
- ・竹村福哉氏、勲 6 等瑞宝章を受章
- ・中央通り会・銀座通り会発足

1995 年（平成 7 年）

- ・サトウキビ品質取引始まる
- ・与論救難所発足
- ・松山俊一氏、勲 7 等瑞宝章を受章
- ・与論町緑化基本計画策定
- ・B & G 与論海洋センター（プール・艇庫）無償譲渡される
- ・平田敏秀氏町長に就任（2 期目）
- ・サーブ機（日本エアコミューター）が奄美・与論間に就航
- ・ありあけ（新造船）就航（与論は不定期）
- ・与論郵便局新築移転
- ・与論小学校創立 120 周年記念式典を挙げる
- ・町連合青年団結成 50 周年記念式典挙げる
- ・土壌診断センター完成
- ・（国勢調査による人口 6,210 人）
- ・赤左地区農業集落排水施設供用開始

1996 年（平成 8 年）

- ・与論徳州会病院オープン
- ・地域福祉センターオープン
- ・川畑芽出雄氏、勲 5 等双光旭日章を受章
- ・野口スミエ氏勲 7 等宝冠章を受章
- ・町商工会設立 30 周年記念式典を挙げる
- ・クルーズフェリー飛龍与論航路に就航
- ・与論 2 世博国（ボクシング）アトランタオリンピック出場
- ・コースタルリゾート整備事業始まる
- ・与論高校創立 30 周年記念式典を挙げる

1997 年（平成 9 年）

- ・与論ー沖縄路線、日本トランスオーシャン航空から琉球エアコミューターへ移管される
- ・ギリシャ村開村（代表 阿由葉辰夫氏）
- ・結団多目的広場（ソフトボール場）完成
- ・さとうきび生産振興島ぐるみ総決起大会開催
- ・与論十五夜踊り保存館（1,2 番組）完成

- ・多目的屋内運動場完成
- ・アイランドフォーラムが開催される
- ・与論中学校創立 50 周年記念式典を挙げる

1998 年（平成 10 年）

- ・指定金融機関業務開始（与論町農協）
- ・名誉町民有村治峯氏白寿祝賀会開催
- ・南大島農業共済事業合併（徳之島、沖永良部、与論）
与論支所開設（本部伊仙町）
- ・全国与論会創立 30 周年記念式典を挙げる
- ・与論郵便局開局 120 周年記念式典を挙げる

1999 年（平成 11 年）

- ・山市郎氏、勲 5 等瑞宝章を受章
- ・国の緊急経済対策として「地域振興券」が交付される
- ・役場に電算システム（総合行政システム）が導入される
- ・喜村政森氏、勲 6 等瑞宝章を受章
- ・クイーンコーラル 8 初就航
- ・南政吾氏町長に就任
- ・与論町・ギリシャ国ミコノス市姉妹盟約 15 周年記念式典を挙げる

2000 年（平成 12 年）

- ・介護保険制度始まる
- ・大角龍矢氏、勲 6 等単光旭日章を受章
- ・金井清蔵氏、勲 6 等単光旭日章を受章
- ・阿多繁氏、勲 6 等瑞宝章を受章
- ・保岡興治代議士、法務大臣に就任
- ・名誉町民・有村治峯氏死去（享年 100 歳）
- ・茶花小学校創立 100 周年記念式典を挙げる
- ・那間小学校創立 100 周年記念式典を挙げる
- ・（国勢調査による人口 6,099 人）

2001 年（平成 13 年）

- ・ギリシャ・ミコノス市訪問団来島
- ・ヨロンマラソン第 10 回記念大会開催
- ・与論町地域新エネルギービジョン策定
- ・役場に財務会計システム導入
- ・淡水化施設供用開始
- ・第 4 次与論町総合振興計画策定
- ・図書館の電算化及び町の公共施設を無線 LAN で結ぶ
- ・与論町地域婦人会連絡協議会結成 50 周年記念式典を挙げる（平成 14 年 4 月から名称を「与論町地域女性団体連絡協議会」と改める）
- ・ホームページ開設

2002 年（平成 14 年）

- ・与論町和牛改良組合が農林水産大臣賞を受賞
- ・町営「増木名住宅」が那間地区に完成
- ・「パナウル王国の環境憲法」を策定
- ・町立診療所休診
- ・役場窓口に「総合窓口」を設置
- ・学校週 5 日制スタート
- ・リサイクルセンター稼動
- ・沖縄復帰 30 周年記念交流事業開催
- ・住民基本台帳ネットワークシステム稼動
- ・県内で初めて「カンキツグリーンング病」を確認
- ・名誉町民に益田元甫氏を推戴
- ・国の狂牛病緊急対策の一環として、すべての牛に 11 桁の番号がふられる「個体識別システム」を整備
- ・川田作福氏、勲 6 等瑞宝章を受章

与論町のあゆみ

2003 年（平成 15 年）

- ・品覇海岸沖に海中宮殿が完成
- ・県内離島初、インターネット高速回線ADSLが島内全域で開通
- ・火葬場「昇龍苑」が完成
- ・南政吾氏町長に就任（2 期目）
- ・与論町収入役の事務を助役が兼掌
- ・町制施行 40 周年・パナウル王国建国 20 周年・奄美群島日本復帰 50 周年記念式典を挙行
- ・「与論町の合併についての意思を問う住民投票」が行われ、合併反対票が 8 割を占める
- ・沖永良部・与論地域合併協議会を離脱
- ・南仁義氏、勲 5 等瑞宝章を受章



火葬場「昇龍苑」

2004 年（平成 16 年）

- ・漁協に新製氷施設が完成
- ・第 36 回大島支部消防操法大会開催
- ・町議会議員定数 12 人となる
- ・与論町自立化戦略会議が自立化計画を提言
- ・サトウキビ生産量が過去最低の 26,430 トンとなる
- ・荣誉町民に池田政敏氏を推戴

2005 年（平成 17 年）

- ・肉用牛販売額（平成 16 年度実績）が初めて 10 億円を突破
- ・茶花小プールが完成
- ・有村悦弘氏、瑞宝単光章を受章
- ・消防自動車（10 トン水槽車）を購入
- ・新麦屋配水池（200m³）が完成
- ・YS11 型機に替わり Q400 型機（日本エアコミューター）が鹿児島・与論間に就航
- ・茶花小新体育館が完成
- ・町本按司雄氏、旭日単光章を受章
- ・堆肥センターが完成
- ・与論小学校創立 130 年記念式典開催
- ・宇和寺住宅団地竣工
- ・（国勢調査による人口 5,731 人）
- ・有限会社エスユー 与論工場開設

2006 年（平成 18 年）

- ・旧町立診療所を鹿児島大学与論活性化センターとして活用
- ・口之津町（現南島原市）と姉妹町協定を結ぶ
- ・錦江町（旧田代町・大根占町）と姉妹盟約を結ぶ
- ・地域提案型雇用創造促進事業導入
- ・知事と語ろう会開催（伊藤知事来島）
- ・野澤マゴさん（110 歳）鹿児島県の最高齢者となる
- ・ストックヤードが完成
- ・与論高校創立 40 周年記念式典開催
- ・与論中学校野球部 県秋季大会で優勝

2007 年（平成 19 年）

- ・与論港コースタールリゾート完成式典開催
- ・パスポート申請・交付業務開始
- ・与論町地域包括支援センター開設
- ・「与論町ヨロン島サンゴ礁条例」制定
- ・Q300 型機（琉球エアコミューター）が与論・那覇間に就航
- ・宇和寺住宅団地 2 棟目完成
- ・町田末吉氏大島郡議会議長会会長に就任
- ・〃 鹿児島県離島振興市町村議会議長会会長に就任
- ・与論中学校創立 60 周年記念式典開催
- ・株式会社 LINKS（リンクス）与論島支社開設
- ・日本マルコ株式会社与論工場立地協定調印式
- ・南政吾氏町長に就任（3 期目）



日本マルコ株式会社立地協定調印式

2008 年（平成 20 年）

- ・与論小学校新校舎完成
- ・震度 5 弱の地震
- ・ノーマイカーデーの実施（毎週金曜日）
- ・ライブカメラの稼動
- ・「クイーンコーラルプラス」及び「あけぼの丸」新造船就航
- ・龍園福秀氏、「瑞宝双光章」「正六位」（死亡叙位）を受章
- ・山下勇夫氏、「瑞宝双光章」「従六位」（死亡叙位）を受章
- ・田畑宮郷氏、「瑞宝双光章」「従六位」（死亡叙位）を受章
- ・染川繁夫氏、「瑞宝双光章」を受章
- ・竹田福重氏、「旭日双光章」を受章



与論小学校新校舎完成

与論町のあゆみ

2009 年（平成 21 年）

- ・ヨロン特産品支援センター開設
- ・町田末吉氏鹿児島県町村議会議長会会長に就任
- ・宇和寺団地（3 号棟）完成
- ・ホームページ開設（リニューアル）
- ・佐藤持久氏・故山下為吉氏与論町民栄誉賞を受賞
- ・光ファイバ開通



ヨロン特産品支援センター開設



光ファイバ開通記念式典

2010 年（平成 22 年）

- ・竹田福重氏、「正六位」（死亡叙位）を受章
- ・西村政達氏、「旭日単光章」（死亡叙位）を受章
- ・永野展秀氏、「瑞宝双光章」を受章
- ・第五次与論町総合振興計画策定
- ・教育スクウェア×ICT 計画策定
- ・過疎計画策定
- ・空港ターミナルビル拡張工事完了
- ・役場南庁舎別館工事完了

町内主要施設等一覧

名 称	所在地	電話番号	名 称	所在地	電話番号
与論町役場	茶花32-1	97-3111	東区青少年センター（東区自治公民館）	麦屋1687	97-2733
与論町教育委員会	茶花32-1	97-3111	古里青少年センター（古里自治公民館）	古里1403	97-2828
与論町中央公民館	茶花1013-4	97-2079	那間へき地保健福祉館（那間自治公民館）	那間3347	97-5058
与論町立図書館	茶花257-1	97-4910	叶生活館（叶自治公民館）	朝戸396-2	97-5050
与論町給食センター	茶花1400	97-4438	沖永良部警察署与論幹部派出所	茶花2029-1	97-2803
与論町清掃センター	茶花2040-1	97-4528	鹿児島県方法務局与論出張所	茶花2323	97-2028
リサイクルセンター	立長684	97-5575	鹿児島県合同庁舎	茶花1420	97-2274
昇龍苑（火葬場）	立長3173-1	97-4661	沖永良部福祉事務所与論駐在	〃	97-2274
与論町総合運動場	茶花2030	97-4939	徳之島家畜保健衛生所与論出張所	〃	97-2033
砂美地来館（町総合体育館）	茶花2045	97-5001	沖永良部農業改良普及所与論駐在	〃	97-4460
与論町地域福祉センター	茶花2643-3	97-4802	与論郵便局	茶花68-6	97-2042
B & G 海洋センター（プール）	茶花2045	97-5023	朝戸郵便局	朝戸1575	97-2016
〃（艇庫）	茶花2466-1	97-5033	那間簡易郵便局	那間3419-1	97-2931
サザンクロスセンター	立長3313	97-3396	あまみ農業協同組合	茶花64	97-3121
保健センター	茶花1491	97-5105	与論町農畜産物流通センター	茶花1135	97-4506
鹿児島大学与論活性化センター	茶花1418	97-5233	与論町漁業協同組合	茶花241	97-2221
赤佐地区農業集落排水処理施設	茶花2	97-2741	与論町商工会	茶花32-1	97-2113
土壌診断センター	茶花1157-5	97-3596	ヨロン島観光協会	茶花32-1	97-5151
ヨロン特産品支援センター	〃	97-3596	与論町社会福祉協議会	茶花2643-3	97-5042
堆肥センター	茶花872-1	81-3443	与論中央クリニック	茶花2179	97-2179
与論町浄水場（淡水化施設）	古里1208	97-2165	龍美クリニック	麦屋1305-5	97-5607
与論空港管理事務所	立長571	97-3465	介護老人保健施設「風花苑」	麦屋1305-5	97-5011
与論港旅客待合管理事務所	立長704	97-4527	与論徳洲会病院	茶花403-1	97-2511
沖永良部与論地区広域事務組合与論分遣所	茶花1190	97-4575	社会福祉法人 愛心会 障害者施設「秀和苑」	立長3069-5	97-4680
介護保険事務局	〃	97-3905	パナウル診療所	那間2747-1	97-2073
包括支援センター	茶花1484	81-3072	児玉歯科医院	茶花16-9	97-4359
茶花子ども園	茶花298	97-2737	サダム歯科医院	茶花1613	97-5088
与論子ども園	朝戸1445	97-2195	日本トランスオーシャン航空	茶花65-1	97-2049
那間子ども園	那間3348-1	97-4668	日本エアコムュータ（株）	茶花65-1	97-2476
私立ハレルヤ保育園	茶花2002	97-4285	（有）有村運送店	茶花235	97-3251
町立茶花小学校	茶花298	97-2031	（株）龍野運送店	茶花235	97-3151
町立与論小学校	朝戸1445	97-2241	南陸運（株）	茶花293	97-3331
町立那間小学校	那間286	97-2278	大洋タクシー	茶花71	97-2161
町立与論中学校	朝戸1134	97-2277	九州電力（株）	立長296-2	97-2700
県立与論高等学校	茶花1234	97-2064	与論島製糖（株）与論事業所	茶花6-14	97-3131
茶花生活館（茶花自治公民館）	茶花2325-3	97-4747	奄美大島信用金庫与論支店	茶花37-6	97-3181
立長へき地保健福祉館（立長自治公民館）	立長2341	97-3117	（有）エスユー与論工場	茶花1015	81-3440
城青少年センター（城自治公民館）	麦屋3405	97-4723	日本マルコ株式会社与論工場	茶花1796-1	97-4888
朝戸児童館（朝戸自治公民館）	朝戸1772	97-4735	株式会社L I N K S（リンクス）与論支社	茶花997-3	81-3178
麦屋へき地保健福祉館（西区自治公民館）	麦屋1904	97-3141			

あ と が き

この要覧は、与論町の概要をご理解いただけるように、必要な資料をできるだけ多く収集し掲載しました。しかしながら、内容や体裁などに、まだ不備な点が多いかと思えます。皆様の率直なご意見をいただければ幸いです。

与論町町勢要覧の編集・発行に際し、ご協力くださいました関係機関の皆様方に心から感謝の意を表しますとともに、今後とも一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。

平成 22 年 12 月



与論町役場 総務企画課

〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 32-1

TEL : 0997-97-3111 FAX : 0997-97-4197

E-mail : kikaku@yoron.jp

U R L : <http://www.yoron.jp/>